平成30年度

ふるさと教育 かづの学

研究集録









秋田県立十和田高等学校

1 はじめに

鹿角地域は北東北の中心に位置し、十和田八幡平国立公園などの自然、毛馬内盆踊りや花輪ばやし、大日堂舞楽などの民俗芸能、大湯ストーンサークルの縄文遺跡など、多様な観光資源を抱えている地域です。また、かつては南部藩の一部であり、政治・経済、鉱工業や交通の要所として栄えた地域でもあるなど、歴史的にも大変興味深い地域です。平成26年度より始まった「ふるさと教育かづの学」は、今年で5年目となりました。この活動はこの鹿角地域の歴史や文化、産業について調査研究を行い、その過程で多くのことを学びながら成長し、最終的には地域社会の活性化に貢献できる生徒を育成することを目指しています。

2 成果と課題

この 5 年間、高校生の柔軟な発想と先生方の熱心な指導、それに対する地域の皆さんのご理解とご協力により、たくさんの成果を得ることができました。その一方で未熟な部分も多く、もっと時間や予算、移動手段等があればどのような活動が出来たのか、成果とともにその反省をまとめ、蓄積していくことが今後の財産となり、研究の質を高めていくことにつながります。5 年間の研究テーマ・キーワードを表 1 にまとめました。詳しい内容は十和田高校「ふるさと教育かづの学」(平成 2 6 \sim 3 0 年度)をご覧ください。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	観光資源マップ	鹿角のお土産	郷土食の開発	花輪商店街	スキー
	ストーンサークル	十和田湖観光	HP情報発信	十和田湖周辺	道の駅
细业。本类	毛馬内探訪	小坂レールパーク	花輪ばやし	鹿角地区の魅力	移住コンシェルジェ
観光・商業	毛馬内盆踊り	地元店舗のHP作成	大湯温泉	HPの作成	後生掛温泉
	毛馬内商店街HP	スキーと駅伝の町	PRソング制作	鹿角での起業	手作りマップ
		若者の定住	スキーと駅伝の町	移住・ふるさとCM	www.
	北限の桃	淡雪こまち	かづの牛	花•西洋野菜	六次産業化
農•水産業	鹿角の食材	北限のモモ	桃豚	北限のモモ	ヒメマス
		桃豚		ソバ	リンゴ・モモ
	自然エネルギー	公害(煙害)	新エネルギー	会社と物流	循環型エネルギー
鉱・工業	水質調査		金属精錬	アンモニア燃料	土壌
	地元産業調査			コンクリート	
	カルタ	昔がだり	伝説と昔話	地域文化活動	戊辰戦争
	方言	方言カルタ	方言カルタ	偉人パンフレット	絵本
文化・歴史	偉人研究	神社	地名と風土	祭り	遣い姫
人儿-座义	オリンピック選手	祭り	朝市	芦名沢観音	つるし雛
		三大盆踊り	ジオパーク		
		紫根染•茜染	統計資料		
生活・福祉	水害	子育て支援	防災		
工石、佃缸	ハザードマップ	リサイクル	睡眠と脈	50000000000000000000000000000000000000	and the same of th

表1 過去5年間のおもな研究テーマとキーワード(十和田高校ふるさと教育「かづの学」研究集録H26~30より)

3 おわりに

平成30年12月20日に本校で行われたふるさと教育かづの学の発表会には、秋田県生涯学習センターから学習事業班の川田貴之社会教育主事、鹿角市からは総務部政策企画課阿部正幸課長のお二人に指導助言者としてご来校いただきました。お二人には全県的視点と鹿角にお詳しい視点のそれぞれから、個々の発表に対する的確なご指導と、愛情あふれるご助言をいただきました。お忙しいところご来校いただいたことと、温かいご指導ご助言をいただいた事に対し厚く御礼申し上げます。また、調査研究のご指導をいただいた各講座の講師の先生方も発表会に多数ご来校くださいました。日頃のご指導とご参観に厚くお礼申し上げます。講師の先生方はふるさとの素晴らしさを知っていて、ふるさとに生きていて、そして発信されています。皆様こそがかづの学の目指す力を備えていられる方々なのです。生徒達がこのかづの学の活動によって考え方や価値観が変わり、成長していくこと。そしてこれからの生き方が変わっていくこと。それがかづの学の最終的な目標です。つたない、未熟な点も多々ある発表でしたが、最後までご参観いただきありがとうございました。今後ともふるさと教育かづの学に対するご理解とご協力をお願い申し上げます。

生徒会長 美濃山 瑞 希

今年度で「かづの学」は5回目の実施となりました。発表方法も昨年とは変わり、第1体育館で全ての発表が行われました。どの講座も興味や関心を持てるものでした。

私は、「鹿角のりんご」の講座に所属しました。最初は鹿角りんごの種類、りんごの糖度、甘み、酸味、食感などの調査を行いました。続いて、りんご狩りをし、りんご農家の現状について理解しました。最後は、りんごの料理はどのようなものがあるか調査し、それを実際に調理しました。この一連の学びで、少子化が農家にも影響していることが印象に残りました。農家でも少子化問題が起こっていることは聞くまで知りませんでした。この問題について私たち高校生もよく考え、若者の目線から意見を提示していかなければならないと感じました。

今年度の「かづの学」では、鹿角の魅力を再発見することができるとともに課題も見つけることが出来ました。来年度の「かづの学」は、今年度以上の収穫になるといいなと思います。

表紙写真

左上 【研究の基礎③】巡見使ルートツアーに参加して 銚子の滝見学

右上 【産業②】鹿角の農産物の六次産業化について考える 枝豆の袋詰め手伝い

左下 【産業⑤】水産資源の活用法を探る!! 十和田湖地引き網体験

右下 【文化①】つるし雛 つるし雛作品

目 次

_ / / /		年目を終えての成果と課題 かづの学	校 生徒会			藤山		男希	1 2
目 次	, ,	%· 2•2∰		X 1X	天1	灭川	71111	বা	3
	年	度 ふるさと教育「かづの学」全体計画							4
各講座の	研	究							
【研究の	基	礎】							
	1	毛馬内盆踊り							5
	2	「かづの元気フェスタ」に参加して							7
	3	巡見使ルートツアーに参加して							9
	4	馬渕さんの講話を聴いて							11
【産業】									
	1	鹿角りんご大好き!							13
	2	鹿角の農産物の六次産業化について考える							15
	3	鹿角の土壌をしらべる							17
	4	「新エネルギーパーク・かづの」における進展	展と現	状か	ら地	1域末	き来り	の展望	19
		を探る							
	5	水産資源の活用法を探る!!①十和田湖水産資料		質環	境				21
		水産資源の活用法を探る!!②ヒメマスについ	て						22
		水産資源の活用法を探る!!③鹿角を活性化さ	せるた	めに	はと	ごうす	けれり	ばよ	24
		いのか?							
	6	鹿角の農地の保全・復興について							25
	7	鹿角スキーインターハイを盛り上げよう!							27
【文化】									
	1	つるし雛							29
	2	鹿角のおもしろスポット取材							31
	3	戊辰戦争150年~戊辰戦争と毛馬内~							33
	4	鹿角の絵本あれこれ							35
	5	十高演劇クラブー演劇「遣い姫」-							37
平成30	年	度ふるさと教育「かづの学」公開研究発表会							
公	:開	研究発表会スケジュール							39
講	評								40
公	:開	研究発表会の様子(写真)							43
生	徒	のワークシートから							44

平成30年度 ふるさと教育「かづの学」全体計画

秋田県五十和田高等学校 校訓



純真謙虚な気持ちで人に接し、

青年としてまた生徒としてふさわしい気品のある態度で行動する。



正しい事である限り、敢然勇気を以て当たり 何事に対しても不撓不屈の精神を以て努力する。



鹿角の自然

鹿角の文化

何事にも辛抱強く、

意識を高める。

表現する。

表する。

人に接するに仁を以てし、寛容の心を以て物事を処理する。

教科の取り組み

自然環境を調査し、生物学的に研究、発表

・身近な地形の学習を通して、防災に対する

・郷土の名所、名産、伝統行事などを英語で

・鹿角の衣・食・住・文化・伝統を調査し、発

・郷土料理のルーツを探り、調理する。

・鹿角の特産品を使った商品開発をする。

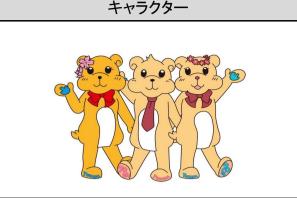
農・鉱工業などを調査し、発表する。

鹿角の産業 Ⅰ・毛馬内・花輪地区商店街を調査し、ホーム

ページ等で紹介する。

学校の教育目標

- 1 心身の鍛練と調和を図り、21世紀をたくましく 生き抜く力の育成に努める。
- 2 全ての教育活動を通して、「純・剛・忍」の生徒 像の涵養を目指す。
- 3 基礎学力を向上させ、積極的に探究する姿勢 を身につけさせる。
- 4 進路目標達成を目指して、情報化・グローバ ル化社会に対応できる人材を育成する。



・郷土の偉人について調べ、その偉業や作品 地域の活性化に について発表する。 鹿角の人物 ・郷土の方言について調べ、発表する。 ふるさとに縁ある五輪選手について学習し、 体育理論を研究する。

貢献できる 生徒の育成

「ふるさと教育」目標

- 1 ふるさとの素晴らしさの発見
- 2 ふるさとへの愛着心の醸成
- 3 ふるさとに生きる意欲の喚起
- 4 ふるさとについて発信する力 の育成

テーマ	分掌の取り組み					
	・体験的活動に参加するのにふさわしい					
	態度及び社会人になるための基礎的					
#1.224 +	素養を身につける。					
勤労・奉 仕・協働の	・他者との協力や奉仕の精神、地域社会					
精神の育 成	の一員としての自覚や、郷土愛を身に					
<i>7</i> ~	つける。					
	・儀礼的行事を通し、本校及びふるさとの					
	伝統や良さを再認識する。					
	・毛馬内盆踊同好会の高文連発表会へ					
	の参加を継続する。					
	・生徒が参加する地域行事やボランティ					
生徒の活 動への支	ア活動を年間行事へ位置づける。					
動への支援	・教科の年間指導計画においてふるさと					
	教育を位置づける。					

総合的な学習の時間

1年生は全員で研究の基礎を学ぶ。2,3学年は縦割りと した12の講座に所属し調査研究を実施する。

<平成30年度開設講座>

【産業】

- 1 鹿角りんご大好き!
- 2 続六次産業化に向けて
- 3 鹿角の土壌をしらべる
- 4「新エネルギーパーク・鹿角」における進展と現状から 地域未来の展望を探る
- 5 水産資源の活用法を探る!!
- 6 鹿角の農地の保全・復興について
- 7 鹿角スキーインターハイを盛り上げよう!

【文化】

- 8 つるし雛
- 9 鹿角のおもしろスポット取材
- 10 戊辰戦争150年~戊辰戦争と毛馬内~
- |11 鹿角における「絵本」のいまむかし
- 12 十高演劇クラブ

	各学年の取り組み							
1学年	・毛馬内盆踊り講習会を実施し、毛馬							
	内盆踊りへ参加する。							
	・職場体験学習で、地元の企業を見学							
	する。							
2学年	・修学旅行において、旅行先の文化や							
	風土を学び、鹿角との相違点を見いだ							
	し、地元の魅力を再確認する。							
3学年	・郷土に関する事物の特徴を再認識し、							
	郷土の文化を発信する。							

学校行事

- ・毛馬内盆踊り講習会を継続実施し、毛馬内盆踊 りへ参加する。
- ・高文連郷土芸能・日本音楽合同発表会で披露す る(毛馬内盆踊り)。
- ・郷土についての講演会を行う。
- かづの学の成果を十高祭で公開する。
- かづの学の公開研究発表会を開催する。

生徒会執行部

する。

・郷土の歴史や偉人に関する本の紹介を

- ・生徒会行事において、ふるさと教育に関する企画・ 運営を行う。
- ・学校新聞、生徒会誌、生徒会だより等に郷土の情 報やふるさと教育に関する生徒の活動を掲載し広 報活動を行う。

代表者 1 A 廣 嶋 渓 介 指導者 毛馬内盆踊保存会 担 当 木 村 由 美

I「かづの学」での位置づけ

毛馬内盆踊りについての学習は、地域の活性化に貢献できる生徒の育成を目指し設定されたふるさと教育「かづの学」の中の、1年生全員が受講する「研究の基礎」の一部である。

1年間の「研究の基礎」を通して鹿角市や十和 田地区の歴史と文化を学習し、1年生で地元地域 の文化に対して理解を深める。2年生からは「商 業」、「農業」、「鉱工業」、「文化」の領域に分かれ、 より深い知識と主体的に学んでいく姿勢や手法を 身につけていく。

「研究の基礎」は研究対象を自ら調べることが できる生徒の意欲と技術の涵養を目的としている。



Ⅱ毛馬内盆踊りとは

毛馬内盆踊りは毎年8月21日から23日の3日間行われる盆踊りである。平成10年に国の重要無形民俗文化財に指定され、毛馬内盆踊保存会によって保護されている。

踊りは「大の坂踊り」と「甚句踊り」の2種類がある。現在はこれに「毛馬内じょんから踊り」が加えられている。

今年度2学期末に行われた、ふるさと教育「かづの学」公開研究発表会において生徒たちが発表した資料に、毛馬内盆踊りの歴史や特徴などが簡略かつ的確にまとめられているので、そこから抜粋する。

- (1) 毛馬内盆踊りは古くから2曲が伝来している。約450年の歴史がある。
- (2)特徴 ほっかむりで顔を隠す。

- (3) 大の坂 かつては唄*1 もついていたが現在 は太鼓と笛の囃子で踊る。
- (4) 甚句 囃子がつかない。七七七五調の歌詞の歌で踊られる。
- (5) 一般的な盆踊りと異なり、衣装ではなく紋 付姿などの正装で踊られるため、「たんすの 底」を着て踊るといわれる
- (6) 女性 留袖や訪問着を着て裾をはしょる。 とき色の蹴出しをつける。
- (7) 男性 黒紋付を着て裾をはしょる。水色の 蹴出しをつける。

なお、アンケート担当の生徒たちは、後述する 毛馬内盆踊りの講習会を受けた1年生を対象にア ンケートを行った。それによると毛馬内盆踊りの 魅力として、 ・綺麗

- 踊りやすく、誰でも踊れる
- 地域とのつながりがある

などが挙げられていた。



Ⅲ体験と実践

(1) 講習会

7月17日、毛馬内盆踊保存会主催の講習会が 1年生全員を対象に行われた。幼い頃から毛馬内 盆踊を経験してきた生徒たちは、慣れた様子で踊 りに参加していた。

十和田高校へ入学したことがきっかけで、この 日初めて毛馬内盆踊りを経験した生徒もおり、1 つ1つの動作を丁寧に学んでいこうとする様子が 見られた。また、希望者は実際に着物を着て踊る こともでき、内容の豊富な講習会であった。

(2) 小学生との合同練習会

先の講習会を通して毛馬内盆踊りに関心を持った生徒たちが毛馬内盆踊りに参加することになり、 盆踊り直前の合同練習会に参加した。この日は小 学生や社会人も一緒の練習会となった。

素直に指導を受ける小学生や、子どもたちに手取り足取り踊りを教える保護者の様子から、毛馬内盆踊りを大切に伝承していこうとする地域の熱心な気持ちが見えてくる。生徒たちは、緊張した様子で毛馬内盆踊保存会の方々の指導を受けつつ、世代を越えて受け継がれていく伝統的な行事に参加するという実感を強くしたようだった。

(3) 毛馬内盆踊り 北の盆2018

8月21日から23日、毛馬内盆踊りが行われた。生徒たちは、夏真っ盛りの3日間、Ⅱで紹介したような慣れない着物を、毎日6時間近く身に着け、毎晩踊った。

初日は不慣れなこともあって、着物を脱いだ夜 10時頃には、大変疲れた生徒たちの様子が見ら れた。

しかし、2日目も明るく参加し、最終日には「疲れたけど楽しかった」という声が聞かれ、疲れさえも楽しんでいるようだった。実際に参加することでしか感じることができない充実感や達成感を、最終日までの体験を通して生徒たちは感じたのだろう。

(4) 公開研究発表会

この発表へ向けた資料の作成が、生徒たちにとって、体験を自らの成長に変える大切な過程である。

情報の精査、効果的な発表に向けてお互いに提案 したり考えを共有したりすること、情報通信ネットワークの活用、などを通して、物事の捉え方や 考えのまとめ方などを学ぶことができた。



Ⅳまとめ

花輪ばやしや大日堂舞楽なども含め、鹿角地域

には毛馬内盆踊りと並ぶ重要な民俗文化が複数ある。地元地域の文化を直接体験することは、文化の多様性を実感できるだけでなく、自分たちが育ってきた地域の文化に対する理解が深まり、その個性を再認識できる貴重な機会でもある。



毛馬内盆踊りの最終日に生徒が「楽しかった」と感じることができたことも非常に重要なことである。地域の伝統文化を「楽しかった」と自らの心身を以って感じることができた経験は、心に残る思い出となる。

成長したとき、思い出がふるさとを大切にする 気持ちに変わっていくのは、大人ならば誰しも思い当たることである。例えば、「盆踊りの踊り手が 少なくなってきたらしい」という話を聞いた時、 伝統や文化を尊重し守る気持ちが、自ら参加した り周りに呼びかけたりする形につながっていく。 それは、また、社会の一員として行動していく自 発的な気持ちでもある。

「研究の基礎」で毛馬内盆踊りについて得た、体験の重要性、情報の活用方法、集団や社会との関わり方を生かして、来年度以降も文化の多様性と伝統文化を尊重できる人材の育成を目指していきたい。

*1 菅江真澄の「百臼之図」や「鄙廼一曲」に歌詞の紹介が収められている。元々付いていた唄は、亡くなった人自身が此岸から彼岸へ旅立つ寂しい気持ちを表したものであったらしく、柳澤兌衛(たつえい)著「重要無形文化財 毛馬内の盆踊」の中にも歌詞に関する記述がある。

Ⅴ参考文献

研究の基礎

-「かづの元気フェスタ」に参加して-

代表者1 B 米 沢 彩 香1 B 湯 瀬 杏 香指導者柴 田 果 織

はじめに

「かづの元気フェスタ」は、活力ある産業の振興による明るい地域社会づくりと、みんながともに暮らす住みよい福祉のまちづくりをめざし毎年9月に開催されているイベントである。

10回目となる今年度の「かづの元気フェスタ」は9月16日(日)に開かれ、1年生42名がボランティアスタッフとして参加し、様々な活動を体験した。

I テーマ設定の理由

ボランティアスタッフとして「かづの元気フェスタ」に参加するなかで、多くのことを学び、考えさせられた。これらのことを、体験内容ごとに5つの班に分けてまとめてみたい。

Ⅱ 実施計画

- 1 事前注意(9月10日)
- 2 かづの元気フェスタへの参加(9月16日)
- 3 体験活動のまとめ(9月18日)
- 4 発表準備(9~12月)

Ⅲ 調査・研究内容

1. 食物部での販売を通して

食物部員は、ケーキ生地にジャムとチーズをは さんだ2種類のオムレットを作って販売した。ジャムは鹿角で採れたいちごを用いて、食物部員が 手作りした。

予想以上に来場者が多く、思ったよりもたくさん売れた。一方、当日は9月にしては暑く、用意していた生地が溶けてしまうというアクシデントがあった。また、作るところと販売場所が離れているため、生地を出すタイミングをつかむのが大変だった。多めに材料を用意すること、早めに生

地を作ることが必要であったと反省した。

この活動を通して、地域の人と関わることができて良い経験になった。また、このようなイベントの際には、十分な準備が必要だと感じた。



写真1 オムレットの製造・販売

2. 子どもとの接し方(家庭クラブ)

家庭クラブ員は、来場した子どもたちに「缶バッチ」や「くるくるボンボン」を作ってあげたり、「スライム」などで遊ぶことができる空間を作ったりした。

この活動を通して子どもとの接し方に難しさを 感じたことから、子どもとのコミュニケーション のとり方を調べてみた。その結果、①子どもの気 持ちを察して寄り添うこと、②笑顔で接すること、 ③共感性を持つこと、④目を見て話すことなどに 気をつけるべきであるということが分かった。

これらのことは普段からできることなので、将 来保育士や幼稚園教諭になりたい人は普段から心 がけたいと思った。



写真2 子どもたちとの触れ合い

3. 受付の活動を通して

鹿角建設技能組合青年部の手伝いとして、お客 さんを呼び込むためにチラシ配りをしたり、木工 教室の受付と作品づくりの補助を行ったりした。

子どもから大人まで様々な年齢の方に合わせた 対応や、お客さんが来ないときの呼び込み、チラ シを配った相手の把握など、難しいことや大変な ことがいろいろあった。しかし、次第に手際よく 作業を行うことができるようになり、自分から仕 事を探して積極的に行動することができた。

この活動から、みんなと協力することの大切さ を改めて感じた。



写真3 木工教室の受付

4. 募金と炊き出しについて

社会福祉協議会の「豪雨災害義援金」の募金活動と、日赤鹿角市地区の「炊き出し体験」の手伝いをした。

これらの活動をから、多くの方が募金に協力してくださることや、災害時に意外と簡単にご飯を炊くことができることを知った。

そこで後日、募金の種類と使い方について調べてみたところ、募金は寄付金・義援金・支援金など様々な形で被災地のために使われていることがわかった。また、災害時の食事についても調べてみたところ、被災地で行われる炊き出し以外にも、「水やお湯で作れるご飯」や「缶に入っているパン」など様々な非常食があることがわかった。



写真4 着ぐるみでの募金活動

5. 商品販売のボランティア活動を通して

芳徳庵のワッフルやレディースファームのアップルパイなどのお菓子販売と、手作り工房あ~るの手作り雑貨販売の手伝いをした。

販売の仕事を体験する中で、コミュニケーションの大切さを実感した。また、計算の正確さやお客様への適切な対応、あらかじめ商品について知ることが重要だと感じた。大変ではあったが、商品をたくさん売ることができたことで、大きな達成感を味わった。

多くの人が訪れてくれたことから、このようなイベントが増えればもっと鹿角の紹介ができるのではないかと考えた。



写真5 お菓子の販売



写真6 手作り工房あ~るの販売ブース

Ⅳ おわりに

「かづの元気フェスタ」に参加して最も多かった感想は、人との接し方に関することであった。コミュニケーションの大切さを実感するとともに、知らない人や年齢の異なる人と接する際に、何に気をつけるべきかを考えさせられた。また、働くとはどういうことなのかを考えさせられた人も多かった。

今回発表した5つの班の活動に加え、駐車場での車両誘導、来場者のカウントなどの活動もあった。どれも、鹿角を知る・考えるうえで貴重な体験であった。この体験を来年度以降のかづの学の研究につなげ、鹿角の発展に少しでも貢献できるようになりたい。

研究の基礎

-巡見使ルートツアーに参加して-

代表者 1 A 長 内 麗 奈 指導者 岩 澤 利 哉

はじめに

本校におけるふるさと教育事業は今年度で5年目となった。今年度も昨年と同様に、かづの学初年度の1年生全員を「研究の基礎」領域の所属とした。内容としては以下の構成とした。

- ①地域を知る一講話をとおして一
- ②地域で活動する
 - ・ 毛馬内盆踊り
 - かづの元気フェスタ
 - ・来満街道トレッキング
- ③情報を伝える一発表の効果的な行い方一

上記のプログラムによって2年次以降の主体的な学びへと接続させ、①ふるさとの素晴らしさの発見、② ふるさとへの愛着心の醸成、③ふるさとに生きる意欲の喚起、④ふるさとについて発信する力の育成、の本校ふるさと教育「かづの学」が掲げる4目標の達成を図りたい。

I テーマ設定の理由

鹿角はかつて盛岡藩(南部藩)の領地であった。そのため現在の青森、岩手県側との結びつきが強く、そこを結ぶ交通路が発達し、盛んに人や物が行き来した。

そうした街道のうち松の木から分岐し、毛馬内・大湯 を通って来満山中を越え、青森県の三戸に達するのが 来満街道である。

十和田地域づくり協議会では、今年度、「市民のチカラ事業」として「『地域観光再発見』来満街道トレッキングー歴史街道を行くー」が企画された。9月8日(土)当日は、雨天のため「巡見使ルートツアー」に変更になったが、一般参加者及び案内人、十和田市民センター職員ら15名と共に1年生9名がツアーに参加した。案内人として地域観光再発見実行委員長・大湯郷土研究会副会長の三上豊氏をお迎えし、説明、案内をしていただいた。このツアーに参加して学んだこと、見聞きしたことをまとめ、ふるさとの地域資源について考察したい。

Ⅱ 来満街道について

来満街道とは、旧藩時代、鹿角と三戸(青森県)を 来満峠を越えて結んだ天下の公道(街道)である。来 満街道は、鹿角盆地の大湯川とその支流安久谷川を 通り、奥羽山脈を越える道であり、古くから「来満越え」と呼ばれてきた。奥羽山脈を越える道筋は、大柴峠・来満峠・不老倉峠の三つの峠があり、総評して「来満峠越え」と呼んできた。

来満街道は「銅の道、塩の道」として、鹿角から は尾去沢銅山産出の銅、酒・米等を、青森方面から は塩・魚・鉄・木綿・薬等の交易がなされた。

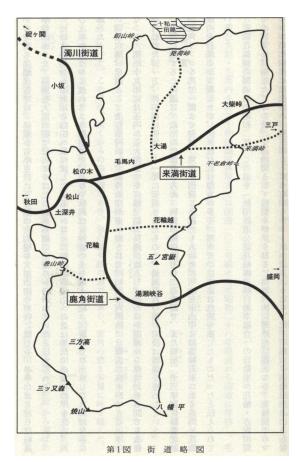


図1 鹿角の街道略図(鹿角市史第四巻より引用)

Ⅲ 巡見使について

来満街道は幾度となく幕府巡見使が通り、領内巡察の盛岡藩主の行列が通ったため「殿様道」とも呼ばれた。幕府巡見使とは、江戸時代、将軍の代替わりの度に幕臣3人が1組になり、各藩の政治、経済、民情などの視察を行うために国々に派遣された役のことである。

江戸からお供の人数は 123 人 (巡見使 1 人につき 41 人)、盛岡藩からの付き添い役人や道心等で 300 人

をこえる大規模な一行だったようである。鹿角には寛 永10年 (1633) から天保9年 (1838) の約200年間 に9回通っている。

Ⅳ 訪問地について

(1)「鹿角街道」標柱建立場所

図1にある鹿角街道は、盛岡から花輪を経て松山に 至り土深井境を越えて、秋田領に入る道筋で盛岡藩で は「鹿角街道」といっていた。

一方、来満街道も青森県側では「鹿角道」または 「田子道」と呼ぶ場合が多く田子から夏坂に書け「鹿 角街道」という石柱が建てられている。

(2) 銚子の滝

この日は雨のあとで水量がとても多く、迫力があった。銚子の滝には、滝の水を利用して明治30年(1897)に運転を開始した大湯川銚子発電所がある。現在は使われていないが、鉱山における電気使用は足尾銅山に次いで日本で2番目、秋田県では1番目で、「秋田県の電気発祥地」の石碑が建てられている。

江戸時代の紀行家菅江真澄はこの滝を見て「いわが ねのとどろくばかりわきかえり雪か雲かとかかる滝 なみ」と詠んでいる。

次の中ノ渡り一里塚に向かう途中、大湯三滝の止滝 と中滝を見た。水が透き通っていてとてもきれいだっ た。



図2 銚子の滝

(3) 中ノ渡り一里塚

大湯から湯ノ岱、若宮八幡宮の山際をたどり、安 久谷川の一ノ渡り、二ノ渡り(中ノ渡り)を渡ってま もなく、街道脇の杉林内に中ノ渡り一里塚がある。 一里塚は街道の両側に対で設置されていたが、旧街 道の北側に新道が取り付けられたため、北側の一里 塚は消滅し、残存しているのは南側の1基のみであ る。塚底部の径は10メートル、塚上及び周囲には現 在杉が植林されている。

一里塚とは、街道の両側に1里(約4キロメートル)ごとに築かれた塚(土盛り)で、旅人の目印になり、塚上に木が植えられたりして旅人が休憩できるように配慮されていたものである。

(4) 北畠昌教卿墓地(上折戸)

大湯から大柴峠に向かう旧街道は上折戸から大 柴峠へ急坂にかかる。折戸という地名は"下り処" で山や峠の下り口に名づけられた地名である。折戸 は、伊勢北畠氏縁りの史跡として知られ、上折戸に 北畠昌教卿の墓所、蔦江姫桜、殿様の井戸、昌斎館 跡等が残っている。

伊勢国司家十代の主昌教は天正四年祖父具教、父 具房を織田信長に滅ぼされ、厳しい追及の手に宇治、 瀬戸を転々とした後、本願寺の庇護を受ける。一方、 北畠氏幕下井上丹後守専忠の嫡男専正は、逃れて顕 如上人に入門し、僧侶となり天正十七年花輪に下り 専正寺を建立するや主君北畠昌教を大湯村折戸館 に迎え、ここに北畠氏直系は折戸氏を称するに至っ たと伝えられている。

北畠昌教卿墓地入口の標柱のある場所でバスが 停車し、道路から安久谷川に少し降りた所に「殿様 の井戸」があった。道を挟んで入口の標柱がある方 へ入っていくと廃屋があり、さらに進むと墓地があ った。木々が生い茂っていて昌教卿の墓までたどり 着くことはできなかったが、その空気を十分に味わ うことができた。

<その他の訪問地>

- (5) 在郷坂一里塚
- (6) 野中堂浅間神社
- (7) 猿賀神社~浜田~錦木塚公園~来満踏切~神田(渡場)
- (8) 毛馬内町(萱町~本町通り~柏野)~腰廻

∇ おわりに

このツアーに参加して身近にあっても今まで知らなかった場所や歴史を知ることができた。また、ツアーに参加した地域の方々と交流することができ、よい経験になった。そしてツアーで学んできたことを忘れず、身近にある歴史を伝え広めていきたいという気持ちをもった。

鉱山で産出された金や銅といった鉱産物は、必要とされるところに運ばれる。鹿角にはそのための交易路が必ずあるはずで、その道は鉱産物だけでなく、米や塩といった生活物資も運ばれる道だった。また、鹿角は盛岡藩(南部藩)だったから、現在の青森県や岩手県と結ぶ街道ができ、幕府巡見使や盛岡藩主の領内巡察に使われた。他地域とのつながりに着目して地域資源を考察してみることも面白いと思う。

参考文献

鹿角市史第四巻

平成 30 年度市民のチカラ事業地域観光再発見"来満街道トレッキング"配付資料

鹿角市ホームページ

研究の基礎

-馬渕さんの講話を聴いて-

代表者1 B米沢魁玲指導者飯塚俊介

はじめに

地域の活性化に貢献できる生徒の育成を目 的に取り組むふるさと教育では、今年度も1 年生全員が「研究の基礎」領域に所属して活 動した。活動内容は以下の通りである。

- ①地域を知る(馬渕大三氏の講話)
- ②地域で活動する

(体験学習・鹿角市先人顕彰館見学)

③情報を伝える(発表会に向けて)

これらの活動を通して、研究の土台を固め、 2年次以降からの主体的な取り組みにつなげ ていきたい。

実施計画

「研究の基礎」領域の導入部分として、馬 渕大三氏による講話を聴いた。馬渕氏は、鹿 角の経済界や文化・伝統に関する多様な役職 を担っている方である。私たちのために以下 のテーマを設定していただき、鹿角市立立山 文庫継承十和田図書館を会場に講話を行って いただいた。

5月8日 毛馬内盆踊り

5月29日 鹿角四姓

7月10日 鹿角の鉱山と産業

この研究集録は、講話の内容をまとめと、 特に興味をもった「鹿角四姓」について、自 分たちで調べたことを付け加えてまとめたも のである。



(十和田図書館での講話)

講話の概要

〇毛馬内盆踊りについて

この講話では、毛馬内盆踊りの始まりや歴 史について話を伺った。また、この地域に伝 わる3つの伝統芸能「毛馬内盆踊り」「花輪ば やし」「大日堂舞楽」についても聴くことがで きた。毛馬内盆踊りについては、別班でまと められているので省略する。

・花輪ばやし

花輪ばやしは、花輪地区の総鎮守「幸稲荷神社」の祭典である。204年の創建時から続いていると伝われている。

• 大日堂舞楽

正月2日に小豆沢の大日霊貴神社でおこなわれる延年舞である。大日堂の起源は定かではないが、堂の完成のときに、都から音楽の博士、楽人らが来て奉納をしたのが、この地に伝わり、大日堂舞楽と言われるようになった。



(大日堂舞楽)

〇鹿角の鉱山と産業について

この地域の鉱山と産業について講話をいただいた。鹿角地域は尾去沢鉱山をはじめとした鉱産資源に恵まれた地であり、そのことが鹿角を豊かな地にしてきた要因の1つでもある。尾去沢鉱山の他にも、小坂などにも鉱山があり、財閥に尽くした鹿角とも呼ばれていたそうだ。

また、尾去沢鉱山は、出羽秋田銅山(秋田)、 伊予別子銅山(愛媛)とともに、三大銅山と され、明治には足尾銅山(栃木)、日立(茨城) を加えて日本五大銅山とも呼ばれていた。



(尾去沢鉱山製錬所跡)

〇鹿角四姓について

鹿角四姓とは、鎌倉時代から戦国時代に至るまでの期間に鹿角地域を支配していた成田氏・奈良氏・安保氏・秋元氏のことである。

私たちが馬渕さんの講話を聴いた中で特に興味をもったものがこの「鹿角四姓」についてだったので、さらに自分たちで調べたことを付け加えてまとめてみた。



・成田氏

成田氏の先祖は、藤原氏の一門の中で役人になれずに全国に移住して武士になった人達の一部である。その先祖が都から埼玉の成田という土地に移住して、成田という名字を名乗り、さらにその分家が秋田県の鹿角市に移動してきた。「成田」という名字が鹿角市に多くいるのはこのためだと考える。

・奈良氏

この「奈良」には、山中の平坦な土地などの意味がある。奈良氏は出羽国鹿角郡(現在の鹿角市)に所領をいただき、移り住むことになった。この鹿角郡には、日本有数の鉱山である尾去沢銅山があり、奈良氏の中でこの鉱山に関わっている人がいたと言われている。

• 安保氏

昔、武蔵七党の一つの丹党一族が鎌倉時代に秋田県の鹿角地方に移り住んだことに由来する。本来の読みは「あぼ」で、秋田県内では「あんぽ」という読みが主流とった。武蔵七党とは、平安時代後期から鎌倉時代・室町時代にかけて、武蔵国を中心として近隣諸国にまで、勢力を伸ばしていた同族的武士団のことである。また、丹党とは平安時代から鎌倉時代にかけて繁栄した武蔵七党の一つである武士団のことである。

丹党一族の出羽国の安保 氏は秋田県鹿角市を中心的 に拠点とし、読みは「あん ぼ」と読むことが多く、安 保氏は阿保氏「あぼ」とも 呼ばれることが多い。

簡単にまとめると、丹党 一族が鹿角市に移り住み、 そこから「安保」と呼ばれ ることが多くなった。



・秋元氏

秋本と語源が同じで、現千葉県の上総国周 准郡秋元郷が起原(ルーツ)である。中臣鎌 足が天智天皇より賜ったことに始まる藤原氏 道兼流があり、千葉県などの関東や山口県に も多い名前である。

まとめ

以下は、「研究の基礎」領域を受講しての感想である。

- ・馬渕さんの話を聞いて、自分達の知らなかった鹿角の伝統や名前の由来などを知ることが出来ました。
- ・今までは何となくしか分からなかった「花輪ばやし」「毛馬内盆踊り」などの歴史や成り立ちを知り、改めて自分のふるさとへの関心が高まった。
- ・鹿角四姓の話を聞いて、自分の近くにいる 人の名字が、昔、鹿角の歴史に深く関わっ ていて、その名字が今の時代まで続いてい ることにすごく興味が沸きました。
- ・2年生の「かづの学」では、自分達でテーマを考え、学習していくことになると思うので、馬渕さんの話を思い出しながら、自分のふるさとのことをもっと深く考えていきたいと思った。

 代表者 3 C 大 森 怜

 指導者 佐 藤 裕 也

はじめに

鹿角には数多の特産物があるが、中でもりんごはその最たるものである。強い甘みと酸味の絶妙なバランスが人気を博し、全国各地から購入の依頼がくるという。本講座では鹿角りんごの魅力をさぐった。

I テーマ設定の理由

果物の名産地として名高い鹿角であるが、その 実りんごの人気は一入である。

そこで、鹿角りんごの特長や魅力を多角的に明らかにしてその人気の理由を探りたいと思い、本テーマを設定した。またりんごの特長を生かしてその魅力を助長することができるようなレシピを発案することで、今後生徒が鹿角りんごの魅力を発信する役割の一端を担ってほしいと考えた。

Ⅱ 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 鹿角りんごの特長について調査
- 3 りんごの糖度測定・比較
- 4 りんご狩り体験
- 5 調理実習のレシピ発案
- 6 調理実習(1)
- 7 調理実習の振り返りと反省 次回実習のレシピ発案
- 8 調理実習②
- 9 まとめ
- 10 ポスター作成・発表準備
- 11 発表準備
- 12 発表

Ⅲ 調査・研究内容

I りんごについての調査

現在鹿角市では「つがる」や「ふじ」などの品種が、およそ300ヘクタールの土地でりんごの栽培がされている。シャキシャキとした歯ごたえ、たっぷりとした果汁、酸味と甘みの絶妙なバランスなどが特長であり、そのおいしさが人気を博して全国各地に出荷されている。

この特長を検証すべく、糖度計を用いて鹿角りんごと他のりんごの糖度を測定した。その結果は

以下の通りである。

品種	シナノ ゴールド	王林	ふじ	ジョナ ゴールド
産地	青森	青森	青森	鹿角
糖度	12.5%	13.0%	10.9%	13.5%

品種が違うため一概に比較はできないが、鹿角で栽培されたジョナゴールドは、他のりんごに比べて糖度の数値がやや高いことがわかった。

鹿角は昼夜の寒暖差が激しいためりんごの身が 引き締まり、甘さもぎゅっと凝縮されるのではな いかと考察した。

2 りんご狩り体験

10月9日、山麓 園さんにてりんご狩 り体験をさせていた だいた。初めてのり んご狩りはとても楽 しかった。また、鹿 角地域振興局の方か



ら、鹿角市のりんご栽培を取り巻く現状に関する お話を伺うことができた。

近年、農家を志す若者が減っている。そのため 秋田県や鹿角市では、農業に従事する若者を支え る独自の制度や研修などを準備しているという。

例えば鹿角市では、農業経営の研修及び準備金 として「農業次世代人材投資資金」研修を設けて いる。水稲・野菜・花き・果樹・畜産の作目を栽



培する者を対象に、50時間と 上の研修を実施し、年150万円の奨励金額を 貸与している。 若者が都市に流 出しがちな現状を踏まえ、自治体が様々な手厚い サポートを準備しているということを教えていた だいた。

3 調理実習

りんご狩り体験でいただいたりんごを使用し、2回の調理実習を行った。ただし、りんごを用いた料理を作るのではなく、鹿角りんごの特長である甘みを生かし、りんごそのものの魅力が引き立つものを作ることを条件とした。

主な料理とレシピは以下の通りである。

★アップルヨーグルトチーズケーキ

- 1 クッキーをジップロックに入れてめん 棒でたたき、溶かしたバターを加えても む。シートを敷いた型に詰めてスプーン で押し、冷蔵庫へ。
- 2 ボウルにプレーンヨーグルト、卵、砂糖、 リンゴジャムを入れて混ぜる。
- 3 2にホットケーキミックスを入れてよ く混ぜる。
- 4 1に生地を流し入れる。
- 5 180℃に予熱しておいたオーブンで 40~50分焼いて、粗熱が取れたら冷 やして完成!

〔感想〕

プレーンヨーグルト の酸味とりんごの甘 さのバランスがよか った。



★りんごの揚げ春巻き

- 1 <りんごの詰め物>を作る。りんごは皮をむいて芯を取り除き、カットして、できるだけ薄くイチョウ切りにする。
- 鍋にりんご、グラニュー糖、レモン汁、 バニラビーンズ、シナモンパウダーを入 れる。
- 3 春巻きに2の材料をのせ、スティック状になるようにクルクル巻く。両サイドと巻き終わりに混ぜ合わせておいたのりをぬり、留める。
- 4 フライパンに揚げ油を深さ $2 \sim 3 \text{ cm}$ 入れて $170 \sim 180$ ℃に熱し、 $3 \approx 3 \sim 3$ でこげ色がつくまで揚げる。

[威想]

熱を通したことを がより がない 強く ないない 強く モン くい もい しかい とった。



★りんごの和風モンブランタルト

- 1 コンポートを作る。りんごは皮をむいて 1/4にカット、砂糖を鍋に入れて弱火で15分煮込む。
- 2 汁気がなくなり、りんごがしっかり柔ら かくなったら火を止めて冷ましておく。 乾燥防止でラップしておくと良い。
- 3 生クリームを固めにつくる(生クリーム が柔らかいとモンブランが崩れやすい)。 白餡と2を合わせた餡もつくっておく。
- 4 組み立てる。1の りんごを半分の大きさにして埋め込む。
- 5 その周りに生クリームを絞る。
- 6 モンブランの口金でりんご餡を絞る。
- 7 お好みで軽く粉糖を振って、りんごを飾って完成。

[感想]

りんごと白餡の相 性が意外にもおい しかった。コンポ ートもきいていた。



₩ おわりに

かづの学で鹿角のりんごについて調べたことで、改めて鹿角りんごのおいしさやたくさんの魅力を実感した。将来農業に携わるか否かに関わらず、鹿角で栽培されているりんごや他の農作物を味わい、伝承していきたいと思う。

本講座の研究に御協力いただきました皆様にこの場をお借りしてお礼申し上げます。

代表者3 A 藤 嶋 梨衣那指導者平 俊 太 郎加 賀 誠 幸

はじめに

私たちの班では、これまでに引き続いて鹿角の 農産物の六次産業化ついて考えたいと思いまし た。昨年までの内容から、特色ある農産物につい て様々あることがわかってきましたので、どの作 物に注目するかなどについて話し合いながら進め てきました。高校生ならではの視点で、地域のた めに何か考えることができればと思います。

I テーマ設定の理由

農産物の「六次産業化」について話し合うといっても、実現に向けた取り組みの中で解決すべき 課題は多く、簡単ではありません。高校生である 私たちにできることが何か考えた結果、実現に向 けたきっかけとなるアイディアやヒントを見つけ ることくらいはできるのではないかと考えました。

Ⅱ 実施計画

- 1. オリエンテーション
- 2. テーマ別ガイダンス
- 3. 鹿角市役所出前講座『どごさデモ』 ~鹿角の農産物~
- 4. 今後の方向性について
- 5. 農家見学
- 6. 見学を振り返って
- 7. メニュー考案
- 8. 試作 (調理)
- 9. 振り返り
- 10. まとめ
- 11. 発表

Ⅲ 調査・研究内容

1. 出前講座~鹿角の農産物について~

「六次産業化」とは、農業や漁業などの「一次産業」、加工・販売を行う「二次産業」、流通などのその他の「三次産業」から作られた言葉です。 もともとは農家が生産した農産物を自ら加工して販売などをまとめて行うことを意味していますが、すべてを一手に行うこと以外にも、複数の団体が連携することも含まれるそうです。

出前講座では、基本的な理解をするだけでなく、 六次産業化のあり方が様々であることを知ること ができました。

2. 農家見学(枝豆、リンゴ、桃、ブルーベリー)

8月10日(金)に、出前講座で紹介して頂いた農家さんの見学に行ってきました。それぞれの農家さんの話によれば、全国的に競合しない出荷時期を狙ったり、従来の加工法以外のものを考えたりしながら、栽培に励んでいる苦労を知ることができました。

枝豆では、出荷できない状態のものはパウダーにして別のものに使用したり、桃であればジュースにしたりして加工にまわすそうです。特に印象に残ったのが、最後に見学に行ったブルーベリーを栽培する精果園さんでした。ブルーベリーは、どうしても生のまま食べたりジャムにしたりというイメージが強く、それ以外の加工に着手する上での悩みも多いとのことでした。設備への先行投資を考えると、簡単にジュースやアイスクリーム、ワインにすることもできないという課題にぶつかってしまうそうです。現状から考えて、六次産業化を進めようとするにも、複数の農家が連携するようなかたちでなければならないだろうとのことでした。





3. メニューの設定について(農家見学から)

見学では、それぞれの農家が抱えている課題について詳しく知ることができました。昨年の反省を活かし、アイディアはそれらの課題の解消に結びつくようなものを考えるべきだろうと話し合いました。その結果、次のメニューを考えました。

①ブルーベリー

ねらい

- ・一度にたくさんの量を必要としないもの
- ジャム以外で加工できるもの
- 話題性のあるもの

理 由

収量に限りがあるため、まとまった量を必要と せず、話題性があるものの方が多くの人に知って もらう上でよいと考えたため

②桃

ねらい

- 傷みやすい桃でも使えるもの
- ・簡単に調理ができて材料の少ないもの
- ・幅広い年齢層に受け入れられるもの

理由

どんな人でも簡単に調理ができ、少ない材料で 作れることと、様々な年代の方にも興味を持って もらえるものがよいと考えたため

4. 試作 ※cookpad、楽天レシピを参考

【ブルーベリーカスタード餃子】(10/23)



①試食した方々の反応 (味や見た目)

- ・ なぜ餃子に?
- 油の味がした。
- はじめての味です。
- ・とてもおいしい。
- カスタードがもっと甘くてもいい。
- ・餃子っぽさが強いのにブルーベリーが合う。

②反省点

- 名前をよく考えるべきだった。
- ・話題性を意識しすぎた。
- 牛乳が多く、カスタードが固まらなかった。

【桃のタルト】(12/11)



①試食した方々の反応 (味や見た目)

- ・おいしい。
- ・甘すぎず、おいしい。
- ・甘くなくておいしいという時代かもしれないが、もう少し甘い方がよい。
- · 6層にして生地をしっとりさせたらよい。
- クッキーを押し固めるとよい。
- 見た目の手に取りやすさがよい。

②反省点

- クリームチーズと桃の相性がよかった。
- ・見た目のよさで第一印象がだいぶ異なる。
- ・上にミントなどを乗せると、よりおいしそうに見えると思う。
- ・タルト生地の上にクリームチーズ、桃クリームを2層重ねると味も見た目もよかった。

5. 考察

一生懸命作ろうと取り組んだ熱意とは対照的に、 手に取る方々の反応はとても正直で、簡単にはい かないものだと感じさせられました。話題性として注目を集めることも重要ですが、試食した方々の第一印象が予想以上に評価や感想に影響したように思います。このことから、ネーミングや盛りつけがいかに大切かということを改めて実感しました。特に、ブルーベリーカスタード餃子については、揚げ菓子のような味から「餃子」といわずに別の表現にするなどの工夫が必要でした。

₩ おわりに

出前講座から、「何かについて考えようとすることも六次産業化のひとつ」という言葉に、大変勇気づけられました。すでにあるような六次産業化の例には及ばなくとも、私たち高校生にできることは必ずあると感じました。今回の研究が、これからの鹿角のために少しでも役立てばと思います。

出前講座や農家見学の際には、多くの方々に対応して頂きました。鹿角市役所農林課の皆様、鏡田ファーミングの皆様、果樹農家の山本さん、精果園の田淵さん、お忙しい中本当にありがとうございました。

代表者 3 C 大 森 敬 太 指導者 吉 成 徹

はじめに

鹿角市は農業が盛んであるが、その基盤となっている土壌について物理・化学・生物・地学など自然科学的な視点で調べるようと考えた。

I テーマ設定の理由

土壌とは、元々あった砂や粘土などの母岩の砕屑物に、植物の遺骸や動物、菌類などの生物の作用によってつくられるものである。どんな実験ができるか調べてみた。土壌生物を調べたり、土壌生物の呼吸を調べたり、土壌の吸着能を調べたりする実験が示されていたが、今回は土壌の pH 緩衝能力を調べてみることにした 1)。

土壌は pH の小さな酸性の水溶液を加えても、陽イオンの交換によって、pH の変化は小さくなる。このはたらきが緩衝作用である。

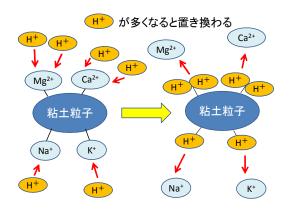


図1 酸性の水に触れたときの緩衝作用

Ⅱ 実施計画

- 1. オリエンテーション
- 2. 土壌の何を調べるか検討
- 3. 塩酸の調製
- 4. pH 緩衝作用の実験 1
- 5. pH 緩衝作用の実験 2
- 6. pH 緩衝作用の実験 3
- 7. pH 緩衝作用の実験 4
- 8. pH 緩衝作用の実験 5
- 9 まとめ
- 10. 発表準備1
- 11. 発表準備 2
- 12. 発表

Ⅲ 実験

1. 試料

生徒の居住地は鹿角市八幡平、同十和田大湯など広い地域に分布しているため、自宅近くの土を試料にすることにした。比較のために大館市も1カ所加えた。

表 1 土壌採取地

採取地	略称
鹿角市花輪字鹿角沢	kaz
鹿角市花輪字級ノ木	sin
鹿角市尾去沢字蟹沢	osa
鹿角市八幡平字小豆沢	azu
鹿角市八幡平字深	huk
鹿角市十和田大湯字腰廻	kos
鹿角市十和田大湯字荒瀬	ara
鹿角市十和田毛馬内字下寄熊	sim
鹿角市十和田毛馬内字柏野	kas
鹿角市十和田毛馬内字下川原	kaw
鹿角市十和田毛馬内字下小路	sit
大館市字池内道上	odt



図2 土壌の採取場所

2. 試薬

1 mol/L 塩酸標準溶液(関東化学)をホールピペットとメスフラスコを用いて、1000 倍(pH=3.0)、5000 倍 (pH=3.7)、10000 倍 (pH=4.0)、10000 倍 (pH=5.0) に希釈したものを準備した。

pH 試験紙と変色域

BPB ブロモフェノールブルー

黄3.0-4.6青紫

BCG ブロモクレゾールグリーン

黄3.8-5.4 青

MR メチルレッド

赤4.4-6.2黄橙

3. 操作

採取しておいた土を乾燥し、電子天秤で $2.0\,\mathrm{g}$ 量りとり濃度の異なる塩酸 $20\,\mathrm{mL}$ を加えた。デカンテーション(傾瀉)して上澄みを pH 試験紙で pH を測定した。

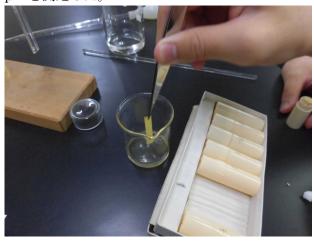


図3 pHの測定

Ⅳ 結果と考察

表2に結果を示した。

表 2 鹿角地区の土壌の緩衝能

• •	· · - ·			
原液 pH 採取地	3.0	3.7	4.0	5.0
kaz	3.2	4.2	4.2	5.4
sin	3.2	4.2	4.4	5.4
osa	3.2	4.2	4.4	5.4
azu	3.4	4.2	4.4	5.4
huk	3.2		4.2	1
kos			4.4	1
ara	3.2	_	_	
sim	3.2	_	4.4	
kas		4.4		5.4
kaw			4.4	
sit	_	4.0	_	5.4
odt	_	3.8	_	5.4

表中の一は未測定。

土壌ごとの pH に大きな違いはみられない。どの土も緩衝能が高かったとみることができる。鹿角地域の土壌は、十和田火山砕屑物の風化土壌であると考えられる。この土壌は黒ボク土といわれ、pH 緩衝能が高いとされている文献 1) や 2)の記述とある程度一致すると考えられる。

一方で、pH に差が出なかった理由としては、pH の測定方法が考えられた。

まず、試験紙による pH 測定は、色のちがいを 読み取るものであり、5つの段階で判断するのが 限界であると思われる。BPB では変色域が 3.0~ 4.6 であるため、1 つの段階は 0.32 程度となって しまう。同様に BCG でも 0.32 となる。

次に MR 試験紙は、変色がほとんど区別できなかったため、BCG と重なりをもつべき pH が 4.4~5.4 の範囲を決定するのが難しかったことが問題であるため、結果の信頼性を損なってしまった。

pH 測定の問題は、pH メーターを購入して再び 実験することで解決できると思われる。

さらに、土壌そのものの pH の測定を今回行っていないが、蒸留水で測定する方法と、塩化カリウム水溶液で測定する方法が文献に示されている²⁾。この研究を継続して行うとすれば、検討すべき課題であるといえる。

Ⅴ 参考文献

- 1) (社)日本土壌肥料学会土壌教育委員会,"土壌の観察・実験テキストー土壌を調べよう! -",p45-51,2006年7月20日
- 2) 梅宮善章ら著,"土壌学概論",朝倉書店, (2001),p22
- 3) 秋田県埋蔵文化財センター,"講演会十和田火 山泥流と家ノ下遺跡資料", p25, (2016), 2018 年12月17日閲覧

http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/pdf/h27odatekoensiryo.pdf

【産業④】 「新エネルギーパーク・かづの」における 進展と現状から 地域未来の展望を探る

代表者3A 福島勝太指導者渡邉一郎

はじめに

今回かづの学で取り上げたテーマ『新エネルギーパークかづの』については、既に鹿角市が未来志向型の街づくりとして、7年も前から取り組んでいる事業を、私達の身近に起こりうる地方経済や地域コミュニティの変容として捉えることで、この自然資源豊かな地である鹿角地方が衰退していかない為のヒントになるものがあるのではとの思いから、また改めて生活の根幹である『エネルギー』の分野から考えてみる事で、故郷について再認識するきっかけが持てればという思いから、学習を通し自分達なりの視点を持って考えてみることにした。

I テーマ設定の理由

2年前に「ふるさと教育・かづの学」の中で地域行政の取り組み課題としてのエネルギー環境(新エネルギー)政策について知ることが出来た。これを機に昨年度もエネルギーに関連(未来エネルギーとしてのアンモニア発電について)したテーマを取り上げ学習したが、鹿角市では実際に循環型エネルギーを活用した街づくりを10年スパンで実施しており、今回高校生活の集大成の一つとして再度「再生可能エネルギー」の活用による街づくりがこの事業発足以来7年目でどの様に変化し、どの方向へと歩みを進めているのかについて学び直すことで、故郷鹿角がどの様に変わっていくのかについて考える機会を持ちたいと考え、新エネルギーをテーマとした講座で探求してみる事にした。

Ⅱ 実施計画

- 1 オリエンテーション
 - (1) 学習テーマ(目的)の確認と班編成
 - (2) 学習の方向性の確認
- 2 班編成 & 活動計画(班別話し合い)
- 3 基本要点学習・資料収集・調査(取材)
- 4 班ごとに調査学習内容のまとめ
- 5 発表準備(発表資料作成と原稿作成)

Ⅲ 実施内容1 オリエンテーション

学習テーマ(目的)と方向性の確認

今回はただ単に『新エネルギー』と言われているものを知る為の調べ学習ではなく、実際に7年前から鹿角市が循環型エネルギー構想として取り組んでいる事業内容も同時に学習(検証)して行く中で、今まであまり目を向けてこなかった行政の取り組みやその恩恵を知ることで、今後故郷鹿角がどの様な変貌を遂げていくのか、はたまた私達の暮らしがどの様な変容に向かって進んでいくのかを思考しながら、少し先の未来を想像し生活していく為のヒントとして意識していく学習が進められたらという思いから、現状を知り目指すべき方向を考えてみる事とした。

そこで学習の方向性として、鹿角市が取り組んでいる事業を調べつつ、実際にどんな形で鹿角地域に反映させているのかを探ってみるグループと『循環型エネルギー』といわれているものについて、それぞれの特徴をまとめ実際に故郷鹿角にどうマッチングしていくのかを調べるグループに分け、この両面から故郷鹿角の『新エネルギーパーク事業』を見つめる学習の機会とした。

2 班編成 と活動計画の立案

まずメンバー14名を四分割し、それぞれの循環型エネルギー(風・水・光・バイオ)に役割を割り当て、その特徴を調べることで実際に故郷鹿角に適合できるのかという点も含めまとめ上げていく作業(学習)を積み上げた。その上で今行われている鹿角市の取り組み状況(評価と実績)と照らし合わせ、この7年間でどう変化しているのか、この先向かう方向性としてどの様な変化が期待できるのかなどについても自分達なりの推測や構想を持つことができればという思いで学習(探求)に取り掛かることとした。

3 要点学習・資料収集・調査(取材)

(1)循環型エネルギーの種類と要点

①太陽光エネルギー

太陽光を黒色のソーラーパネルで受け、これを 電気エネルギーに変換する装置を使った発電方法 である。メリットは環境に優しく、自給生成が可 能であり、さらには自家発電での余剰電力を売買 することも可能である。がしかし設備の設置費用 が高かったり発電量に安定性が確保できない。更 には発電した電気を蓄積しておく設備も必要にな ってくることからより一層の改善が望まれる。

②風力発電

金属製の大きな風車に風を受けて、羽を回転させこの動力を利用して発電機を回し電気を作る発電方法。(大湯田代平地区に設置)。昼夜を問わず連続発電が可能であるが、風が強すぎても安全性の確保から制限したり止めてしまわなければいけない事もあり、風任せな分安定供給には至らない面がある。

③バイオマス発電

有機物(家畜の排泄物・生ゴミ・木屑・サトウキビ・稲わらなど)を燃料として活用し、化石燃料の代替品としてエネルギーを得る発電方法である。一般に不要物を活用する為効率的でゴミの減少にも一役買う。しかしながら、材料を収集する為のコストが予想以上に掛り不要物以外のものも使用せざる得ない状況になる可能性も考えられる。その為発電施設の立地条件が案外厳しく、秋田県でも一箇所しか設置できていないのが現状である。

④水力発電

水源の高低差を利用して水の流れを作りタービンを回すエネルギーとして利用した発電方法である。従来だと大規模水源や人工的ダムを利用しての大規模発電施設を活用していたが、最近では「マイクロ水力発電」という簡易水力発電の方法も注目されてきている。小規模発電の為、どこでも安価で簡易に設置が可能である反面、発電量も規模程度しか確保できない側面を持っている。この為個人ベース以外では積極的登用には至っていないのが現状である。

(現在鹿角市では新たな循環型エネルギー確保の 手段として、実験的な設置準備を進めている。)

(2) 鹿角市が取り組んでいる事業から

現在鹿角市では、『鹿角市地域新エネルギービジョン』として7年間鹿角の地域特性を利用した

新エネルギー(循環型エネルギー)を市民に反映させていく形で実現しようと実施してきた。政策の基本的な方向性としては、①多くの市民の目に触れ体感することで環境保全への意識を高める。②共動による新エネルギー普及の仕組みをつくる。③新エネルギーの導入により地域の活性化をはかる。である。これらの3本柱を軸に各種具体的な施策を展開している。その成果として、市役所や小中学校などの公共施設や街灯など、ソーラーパネル併設型LED照明が既に78基完備され、「新エネルギー講座」も23回開催されている。その成果の一端として「小学生向け壁新聞コンクールで全国銀賞を受賞」するなど、着実に将来共同参画してくれる人材の育成面などでも成果が上がってきている。

また、更なる試みとして循環型エネルギー確保の仕組みを利用して生み出された電力は、需要エネルギーの約1.3倍もの確保ができていますが、送電システムの不備や蓄電方法が確保されておらず、これらの解消へ向けて「かづのパワー構想」へと段階をすすめている。

※【鹿角パワー構想とは、地域で生産された電力を 電力会社等に売る事で収入を得たり、格安の料金で 電力を地域に還元供給する為の事業所を立ち上げ ることを目指す仕組みのことである。】

Ⅳ まとめと今後について

探求学習を実施してみて、故郷鹿角がこんなにも循環型エネルギー資源を持ち、長期に渡ってこれを活用する取り組みが為されている事に感動と喜びを感じる事が出来た。普段行政が行っている事への興味や関心が如何に低く、気づいていなかったのかという事を改めて自問することが出来るきっかけになった。現段階で全てを行政サイドが賄う事は叶わないが、各家庭において取り組める事(ソーラーシステムやエコ急騰システムなどの導入や余剰電力の供給側の立場になる等)もあり、地域住民一人ひとりの意識の持ち方や取り組みによって、官民一体となった街づくりが成り立っていけたら良いと考える。

最後に、故郷鹿角が今ある自然を生かし、四季を感じながら、心豊かに暮らすことができる環境を維持しながらも、快適な生活を送るための工夫は、我々一人ひとりの価値観と行動力の創造と共有の上にこそ未来が開けていくのではないでしょうか。

【産業⑤-1】 水産資源の活用法を探る!! グループ① 十和田湖水産資源 · 水質環境

代表者3 B大里彩指導者寺田 尚志

はじめに

私たちの班では、鹿角の水産資源の活用法を探ると共に、水産資源による自然の豊かさ、ありがたさを調べたいと思いました。

I テーマ設定の理由

夏休みに経験した中滝ふるさと学舎での体験活動や十和田湖での増殖事業見学をもとに、ヒメマスやその生息環境についてより深く調べてみたいと思いました。

Ⅱ調査・探究内容

<十和田湖水産資源について>

右の写真の魚は地域 特産物として売り出さ れているヒメマスで、 地域おこしの素材とし ても注目されています。



十和田湖にはヒメマス以外にもコイ、ワカサギやサクラマスが生息していますが、そのどれもが 漁獲量生息尾数ともに減少傾向となっています。 この漁獲量、生息量を増やし、どのように維持す るかが大きな課題となっています。

年度のはじめに河川における様々な取り組みを 県庁出前講座にて学ぶ機会がありました。アユや サクラマスが堰堤を通過できるよう、簡易魚道の 設置や、堰堤の流れ出しを階段状にしていること を知りました。また、護岸工事で産卵場所が減っ ているため、人工産卵場の造成を行っていること も初めて知りました。

加えて、かつて護岸や堰堤の工事が行われた箇所についても、生物が住みやすいように、川の環境を復元するための工事を行っている所もあるそうです。

十和田湖のヒメマスについても、産卵しやすい 場所を人間が意図的に造ったり、ヒメマスの放流 体験をもっと沢山の人に知ってもらうなど、水産 資源に興味を持ってもらうことが必要だと感じま した。



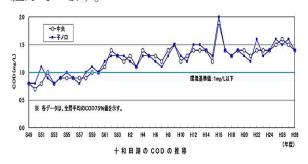


<十和田湖の水質環境について>

① 十和田湖の水質

化学的酸素要求量 (COD, Chemical Oxygen Demand) とは、水中の被酸化性物質を酸化するために必要とする酸素量で示したものです。代表的な水質の指標の一つでもあり、酸素消費量とも呼ばれるそうです。

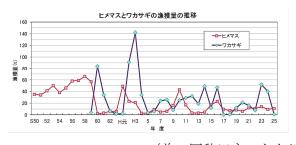
ヒメマスはその水質環境が悪ければ生息できなくなってしまいます。それを改善するために十和 田湖水質保全検討会が設置され、COD や透明度に ついて目標値を設定して、水質環境の改善に取り 組んでいます。



(青森県庁ウェブサイト より)

(※COD については「中央(湖心)」及び「子の口前面」の全層 75%値、透明度については「中央(湖心)」の値で評価する。)

② ヒメマスとワカサギ



(美の国秋田ネットより)

十和田湖でワカサギの生息が確認されたのが昭和57年、漁獲量の記録が昭和59年から残っていますが、この年を境にヒメマスの漁獲量の変動が激しくなっていることが分かります。これは、ヒメマスとワカサギ両方とも動物性プランクトンを主食としており、餌の競争が発生したからと考えられます。

皿 まとめ

様々な体験活動を通し、身の回りの水産資源及 び取り組みについて理解を深める良いきっかけと なりました。

【産業⑤-2】 水産資源の活用法を探る!! グループ② ヒメマスについて

代表者 3 B大森 統吾指導者寺田 尚志

はじめに

私たちの班では、ヒメマスとその料理について ベニザケと呼んでいます。 調べることにしました。

I テーマ設定の理由

十和田湖の孵化場での地引き網体験やヒメマス 料理を食べたことから、ヒメマスやその料理について調べてみたいと思ったからです。

Ⅱ 調査・探究内容

ヒメマスはサケ目サケ科サケ属の淡水魚です。 日本では北海道の阿寒湖とチミケップ湖に自然分布しています。アイヌ民族に馴染みのあることからアイヌ語でカパチェッポ(薄い魚)とも呼ばれることがあります。大きさは20~30cmほど。大きいものは50cmになるものもいます。

身肉は紅色。ほかのサケ類と同様に塩焼きや刺身、フライ、ムニエルはヒメマスのポピュラーな食べ方です。焼くと身がしまり旨みが強くなります。味の評価はマスやサケ類の中で一番美味しいと言われていますが、鮮度落ちは早い魚です。

① ヒメマスの旬は?

ヒメマスの美味しい旬の時期は春から夏にかけての頃、5月~7月頃が旬の季節だと言われています。産卵期が9月~11月頃と言われ、産卵前に体にいっぱい栄養を蓄えている季節が美味しい旬の時期です。

② ヒメマスとベニザケの違い!!

実は<mark>ヒメマスとベニザケは同じ魚</mark>なのです。 湖などの淡水域で生まれ幼魚時代を過ごしたベニ ザケのうち、その一生をその場で過ごすベニザケ をヒメマスと言います。

ヒメマスは生まれた湖などの淡水域で一生を送 る湖沼残留型(陸封型)のベニザケ、そしてベニ ザケと名の付く個体はある時期になると海に降り、

海で成長し(降海型)、産卵時に溯上するものを ベニザケと呼んでいます。



(↑ヒメマス)



(↑ベニザケ)

③ ヒメマスの養殖問題について!!

北海道の阿寒湖とチミケップ湖を原産にしたヒメマスですが、本州では青森県と秋田県をまたぐ 十和田湖、栃木県の中禅寺湖などに移植されて現 在生息しています。明治時代にヒメマスが十和田 湖に移植された話は大変有名な話です。

他にも富士五湖に移植されたヒメマスが生息しています。1980年代前半までその数も多く、食用だけでなく釣りの対象魚としても人気でしたが、

現在は絶滅危惧種に指定されており毎年決められ た数しか水揚げされません。

その理由にはヒメマスの産地である中禅寺湖の 原発事故による放射能汚染や、ヒメマスが生息す る湖へワカサギが放流されたことで、餌の取り合 いがおこりヒメマスが減少するなど生態系の崩れ によってヒメマスの数が減少したことなどがあり ます。

生産量が増えない理由はヒメマスの養殖の歴史 が浅く資料が少ないため、水質の変化で幼魚が弱 ってしまうなどと飼育が難しい魚であるというこ とのようです。養殖技術が確立しヒメマスの養殖 が進み、漁獲量が以前のように増えることへの期 待が寄せられている現在です。

④ ヒメマス料理!!

ヒメマスの刺身

ヒメマスは天然ものと養殖のものがありどちら も高級魚とされています。刺身など生で食べる場 合、天然のサケ科の魚にはアニサキスやサナダム シの寄生虫がいることがあります。寄生虫が人体 に入ってしまうと、強い腹痛や腹部膨張などの症 状を伴う食中毒を起こしてしまいます。新鮮なヒ メマスの刺身はうま味が強く美味しいと言われま すが、寄生虫には注意しなければなりません。

天然のヒメマスを刺身で食べる場合は、身肉を 一定時間凍らせて、半解凍して刺身にするのがお すすめです。一定時間身肉を凍らせることアニサ キスなどの寄生虫を死滅させることができるので す。この食べ方はルイベと呼ばれます。

ルイベとはサケを生で食べるときの寄生虫による中毒防止の危険回避の調理法で、アイヌ民族の間に伝わる知恵の一つです。ヒメマスのルイベの味わいは、うま味が豊かで美味しいと言われます。 養殖のヒメマスには寄生虫はいないので生でも安心して食べられます。刺身でヒメマスを味わうには、養殖のヒメマスを調理するか、天然のものならルイベで食べるのがおすすめです。

ヒメマスの塩焼き

塩焼きはヒメマスの最もポピュラーな料理です。 焼くと皮目に独特の香ばしい食欲をそそる風味が します。焼いても身肉は硬くならず身離れもよい です。ヒメマスの脂ののった身と塩が絶妙にマッ チした塩焼きの味は、白いご飯によく合います。

切り身ではなく小ぶりのものを丸ごと塩焼きするときは、ヒレが焦げやすいので、ヒレに塩を多めにまぶして焼くと焦げずに焼くことができます。





Ⅲ 来年度への提言

私たちは、今回のかづの学を通して十和田湖のおいしいヒメマスを使った料理を活用することで少しでも鹿角の地域活性化つながるのではないかと考えました。そこでぜひ、来年度では新たなヒメマス料理を作ることに挑戦してほしいと思いました。具体的には、他地域のヒメマス料理やヒメマスに限らず様々な魚種の料理等を研究したり、自分達で新しいヒメマス料理を開発したりするなどです。

また、かづの学での体験からヒメマスという魚 自体に興味を持ちました。ですが、今年度はヒメ マスの釣り体験や鹿角市と他地域のヒメマス活用 方法の比較などの気になる事ができないまま終わ ってしまったので、ぜひ来年度はこれらに挑戦し てみてほしいと思います。今年度私たちが研究し たことから導き出した考えやできなかったことに 興味を持った人は、来年度以降これらに挑戦して もらえると嬉しいです。

【産業⑤-3】 水産資源の活用法を探る!!

 代表者
 2 C
 阿部 友香

 指導者
 寺田 尚志

はじめに

私達は鹿角の水産資源について調べると共に、 鹿角の魚をどのようにアピールしていけばよいか を考えてきました。

I テーマ設定の理由

水産資源について調べていくにつれて、魚には 地域を活性化させる力があるということに気がつ いたのでこのようなテーマに設定しました。

Ⅱ 調査・探究内容

- 1. 秋田県水産振興センター内水面試験池 自然科学研究所の佐藤さんの講演
- 2. 鹿角市中滝ふるさと学舎にて体験活動
 - ・まちの案内人による滝巡り体験
 - ・ イワナの調理体験
 - ・山麓園見学
- 3. 中滝ふるさと学舎にてボランティア活動
 - アロマキャンドル作り
 - 森のクラフト作り
 - 石ころアート
- 4. 新聞切り抜きコンクールにポスターを応募
- 5. 十和田湖ふ化場
 - 十和田湖地引き網体験
 - ・ヒメマス採卵体験
 - 孵化場見学
- 6. 体験内容まとめ





Ⅲ 感想・考えたこと

今回のふるさと教育では、水産資源を通して地元のことを考えるきっかけにもなり、とても良かったです。発表ではまとめとして自分たちの活動からどのようにして地元に役立てられるのか考え、伝えることができました。しかし、発表するときに緊張で顔を上げることがあまりできなかったのでそこが駄目な点だったと思います。聞いている人に分かりやすく伝えるためにはもっと練習が必要だったということが今回の発表でわかりました。

来年は今回のことを活かして発表内容をできる だけ早くまとめて練習に時間を使えるように頑張 っていきたいと思います。

次に私達は水産資源について調べると共に、新聞切り抜きコンクールへポスターを出しました。この取り組みによって、秋田県内の水産資源の活用や状況、町をPRする取り組みについて知ることができ、とても勉強になりました。記事探しやポスターの内容をまとめるのがとても大変でしたが、後から振り返るととてもやりがいのある活動だったと思います。秋田県内の出来事を地元について置き換えてみると次々とアイディアが浮かんできて、「鹿角だったらこのような取り組みをしたらいいんじゃないか」と考えるのがとても楽しかったです。

Ⅳ 来年度への提言

来年度の水産資源についての活動では以下のような内容を取り上げていってほしいです。

- ・地元の魚の中で地域活性化につながる魚がいないか調査する。
- ・魚だけじゃなく滝を使って地元に関わることができないか考える。

 代表者 3 C 兎 澤 菜 摘

 指導者
 小笠原 和 寿

はじめに

鹿角には現在、使われていない農地が多数あり、 それらを維持していくのが困難な状況にある。鹿 角市農業委員会の方々と数回に渡りディスカッションを行い、これら農地の活用方法を提案すると ともに、農地に関する制度なども学びたいと思う。 また、研究を通じて、鹿角の農業の将来について も考えるきっかけにしたい。

I テーマ設定の理由

鹿角は農業が盛んと言われているが、果たして本当にそうなのだろうかという疑問が以前からあった。農業ができる広大な土地はあるのかもしれないが、自然が多いからと言って、農業が盛んでそれが成功するとは限らないだろう。実際、私たち高校生は農家を営んでいる方々や鹿角市の現状を知らない。そして、ある時、インターネットで「(使えるのに) 使われていない農地」が鹿角市に何百ヶ所もあることを知り、「なぜ使わないのだろう?」という疑問と同時に、これを研究テーマにして、活用方法などを高校生なりに提案しようと思った。また、地元の農業を考えるきっかけにしようと考えた。

Ⅱ 実施計画

- ①オリエンテーション
- ②グループごとに今後の進め方など確認
- ③鹿角市農業委員会だよりを見て、説明・意見交換・感想など
- ④ 鹿角の農地・非農地をインターネットで調べる
- ⑤鹿角市農業委員会より講義や意見交換

(大里さん、柳沢さん)

- ⑥池田果樹園さんでリンゴ作業手伝い
- ⑦鹿角の農業・農地の今後の課題など話し合い
- ⑧池田果樹園さんでリンゴ収穫手伝い
- ⑨鹿角の農業が抱える諸問題と解決法を議論
- ⑩鹿角市農業委員会の方々と話し合い

(大里さん、柳沢さん、池田さん)

- 印意見交換・まとめ・発表準備など
- (2)意見集約·発表準備
- ①発表準備
- 44公開研究発表会
- ⑤1年間のまとめ

Ⅲ 調査・研究内容

- 1. まず、私たちは「鹿角市の使われていない農 地の活用方法について提案すること」ことを目的 とした。そのため、手始めに、鹿角市にある、使 われていない農地を「農地の窓口」というサイト で調べた。その結果、数え切れない程の場所があ ることが分かった。そして、なぜこんなにあるの か?という疑問を話し合った。農業をやる人がい ない理由については、①やっても儲けにならない ②やらなくても生活できる ③人口減少や高齢化 でやりたくても体力面等の問題でできない ④若 者は農業に魅力を感じず、後継者にも新規参入者 にもならない などの意見が出た。また、年齢構 成や希望職種などが昔と変わっているのだから、 むしろ農地が余るのが当たり前で、それを何かに 使おうと考える必要はないのではないかという意 見もあった。
- 2. 1回目の鹿角市農業委員会の方々との話し合いを行った。農業委員会の大里さん、柳沢さんの2名に来ていただき、①鹿角市の現状 ②農業を始める場合の制度や条件 ③鹿角市の農地や非農地を大きな地図で説明などをしていただいた。この時点ではまだ私たちの提案はなく、まずは鹿角市の農業についていろいろと教えていただいた。
- 3. 農業委員会の紹介で、リンゴ農家を営んでいる池田果樹園さんに、作業の手伝いを体験させていただけることになった。リンゴは太陽の光によって色付きが決まるということで、リンゴをゆっくり半回転くらい回すという作業である。実際にやってみると、うまく向きが変わらなかったり、私たち15人でたった2~3本の木をやるだけで精一杯だったり、簡単なことではなかった。池田さんから「商品価値を高めるためには、このような地道な作業こそ、毎日手を抜かず、丁寧にやらなくてはいけない」というお話を聞き、農家の方がよく言われる「子どものように手を掛けて大切に育てる」という言葉を実感した。
- 4. 私たちは次の3つについて話し合った。 ①農地を借りやすくする方法。②農地の活用の方 法と何を作るか。③どうすれば農業に興味を持っ

てもらうことができるか。についてである。 それぞれにたくさんの意見が出されたので、ここ にはすべてを書ききれないが一部を抜粋すると、

①については、「一人で借りるのではなく、連名・地域・法人で借りる」「個人で家庭農園のような感覚でも許可する」「失敗した時、損害を補償してもらえる」「市の職員が農作業を手伝ってくれる」「農機具を貸してくれる」「市の広報活動を充実する」

「期間限定無料農地レンタル制度」「農業情報(どれくらいお金がかかるか、どれくらい借りられるのか、なにを作ってもいいのか、できた作物はどうするかなど)を分かりやすくする」「インターネット募集&申し込み」「手続きを簡略化する」「補助金を多く出す」「年齢・借り方・面積などで特典を付ける」「市が販路の斡旋をしてくれる」など

②については、「単価の高いものを作る」「珍しい・ 人気がある・流行っている・他県で作っていない ものなどを作る」「気候に合ったものを作り、名産 品にする」「米や野菜ではなく、果物や花に力を入 れる」「天候や災害に強い作物を作る」など

③については、「学校等に無償提供。指導員に付いてもらって農業体験をする。自分たちで世話をする。収穫したら自分達で食べる、配る。体験を紹介する」「リンゴ、梨、桃などの他に、たけのこ、イチゴなど、『〇〇狩りツアー』ができるものを作り、イベント化し集客する」「都心向けに『やってみよう農業』のようなイベント企画で集客、泊りで参加料は無料にする」

など、多くの意見が出た。また、同時に私たちは、 鹿角の農業が抱える諸問題についても避けては通 れない大きな問題として考えてみることにした。

「農家の高齢化と後継者がいないこと」「そもそも 農業をやろうと思わない人がいないのでは?」「農 地を借りる時の手続き、借りる条件、農地の使途 など、色々と規定がありそうで、煩雑で面倒くさ いし、お金もかかりそうだ」「鹿角の使われていな い農地をどう活用するのかということ自体、問題 視されていない」「若者の減少や高齢化なども問題 だと思うが、そもそも農業に魅力が感じられなけ れば、やりたいとは思わない」などの意見が出た。 しかし、高齢化はたしかに日本の大きな問題だが、 若い人が農家をやることはできる。そう考えると、 若者の新規就農人口をどうやって増やすかが問題 解決の第一歩になるのだとここで再認識すること ができた。 5. 池田果樹園さんで2回目の作業手伝いに伺った。今回はいよいよ収穫である。15人で1時間弱収穫しても、たった1~2本の木のリンゴしか収穫できずに、その大変さが分かる貴重な体験であった。最後に池田さんから、農業を始めるまでの経緯、始めてみてからこれまでの感想や、現在の農業やリンゴに寄せる想いや、市の制度などのお話もしていただいた。また、帰りには、箱でたくさんのリンゴを頂戴し、みんなで大変おいしくいただいた。ありがとうございました。







6. 2回目の鹿角市農業委員会の方々との話し合いを行った。農業委員会の大里さん、柳沢さん、池田さんの3名に来ていただいた。これまでの研究内容について検討し、意見をいただき、質疑応答も含め、大変充実した話し合いができた。







- 7. まとめとして、私たちはこれまでの研究成果 として次の3つを、鹿角市の使われていない農地 の活用方法について提案したいと思う。
- ①「借りる人へのプラス特典」申し込み時に特典 を付け、就農者の人数を増やす考え。
- ②「外部への宣伝強化とイベント企画の定着化」 イベントの農業指導員として小中高生を起用した り、できた農産物を参加者に後日プレゼントする などして、市民が役員として参加、活動の幅を広 げていける取り組み。
- ③「農業に興味を持つ体験の場として活用」

例えば小中高の学校に無償で貸し、農業の楽しさ や大変さ、充実感を経験させる。最終的にはそれ が郷土愛を育て、農業がある我が鹿角を誇りに思 うことに繋がる最善の活用方法なのではないか。

Ⅳ. おわりに

お忙しい中、本講座の研究に多大な御協力いただきました鹿角市農業委員会の皆様に、この場をお借りしてお礼を申し上げます。貴重なお話と、体験の場をくださり、ありがとうございました。

はじめに

鹿角でインターハイが行われたのは第10回大会から数えて今年の開催で9回を数える。(第10回、第15回、第22回(大湯開催)、第28回、第45回、第55回、第63回(ジャンプ種目のみ)、第64回、第68回(今大会))この9回という回数は全国最多回数となる。十和田高校の全国入賞は6回もあり、その中でも、第66回群馬県片品で行われた大会では見事、女子総合優勝を勝ち取っている。花輪高校や秋田北鷹高校(鷹巣農林高校)の活躍も輝かしい。

地元で開催されるインターハイに高校生の動員 がある他に、インターハイを学校独自の方法で盛 り上げることはできないかと考え、この講座を立 ち上げた。

Ⅱ 実施計画

①他県(長野県・新潟県の取り組みを参考にしました)の取り組みを参考に自分たちができることを考える。



↑青森県の高校生による津軽三味線の演奏



↑前回鹿角で行われた大会の様子



代表者3 B 兎澤柊人指導者石井智子



↑生徒が作ったのぼり旗で応援! (全中)

○生徒から出た案○

- ・地元食材を使った豚汁の配布
- ・試合後の選手へドリンクの配布(紙コップを工 夫する)
- ・スポンサーの手伝い (ドリンクの配布など)
- ・ホッカイロやティッシュの配布(鹿角の特産品 の絵や写真を貼る)

事務局からのアドバイスで、食品を扱うものは 衛生上厳しく、断念せざるを得なくなった。

②事務局と相談し、全国各地から訪れる選手や監督に鹿角の魅力を発信する手段として、高校生の手書きの地図を作成し、宿泊施設や市役所などに置いてもらうことはどうかと案が出た。

③さて、どこの地域の地図を作成しようか・・・ 選手、監督の宿泊は、大湯地区、湯瀬地区、花輪 地区と様々だったので、選手、監督が多く宿泊す る、大湯地区と湯瀬地区、そして学校のある毛馬 内地区に絞り、作成することになった。

④班ごとに分かれ作成に取りかかった。

Ⅲ 調査·研究内容

地図を書く際の条件として、すべてが生徒の**手**書きであること、宿泊施設から**歩いて行ける範囲**であることを条件に上げて書き始めた。

1·大湯地区(1班)

大湯班は、真ん中に地図を配置し、お店の紹介などを周りに書くことにした。

↓作業過程





班員に地元の生徒が多くいてもなかなか書き進めることができませんでした。まずは、自分たちが大湯地区の何を選手、監督に知ってもらいたいのかを書き出してみることにした。そうすることで紹介したいことが絞られ、話し合った結果、大湯の道の駅周辺を書くことになった。

完成した地図



2 · 湯瀬地区 (2班)

湯瀬地区は広いので、1枚にまとめるのに苦労しました。湯瀬地区をさらにホテルの周辺、八幡平駅前、八幡平スキー場周辺、ドライブインなどの飲食編に分けて書くことにした。目的は選手や監督が徒歩で行けること、車で移動するとしてもこの地図を見て到着できること、なのを条件に地図のつなぎ目をわかりやすくした。

↓作業過程





湯瀬地区はホテル周辺とドライブインや飲食店 周辺と離れているので、駅やルート名で場所を明確にした。八幡平駅前から湯瀬地区の282号線 までと、282号線沿いの五の宮温泉とトン八の 紹介、道の駅かづの「あんとらあ」で買えるお土 産の情報も載せた。

完成した地図



3 · 毛馬内地区(3班)

学校を中心に周りの飲食点やお土産屋さんなどをまとめた。

完成した地図



↓その他、1,2年生で作成した応援旗



₩ まとめ

今大会は、他県で行われるインターハイの半分の費用、約4500万円で開催される。秋田での開催、9回という回数は全国最多回数となる。1箇所で3つの競技、アルペン、クロカン、ジャンプを観戦できるので、種目によって移動せずに済み徒歩5分以内で別の競技を見れることが花輪スキー場の強みです。選手の宿泊するホテルや旅館での食事は、鹿角の特産を使用したメニューで出されるそうです。たくさんの選手や監督さんたちがこの地図を手にし、鹿角の良さを知るきっかけになればと思う活動であった。

代表者 3 C 藤 田 希 望 指導者 土門祐子·長里加奈子

はじめに

鹿角には様々なお祭りがあり、これまでも「かづの 学」で研究されてきていま す。しかし、毛馬内地区こ



もせ通りで行われる「つるし雛まつり」は、これまで取り上げらていませんでした。そこで、本研究では、この「つるし雛」について調査・研究をすることとしました。

I テーマ設定の理由

毛馬内地区では、長い歴史を持つ夏の毛馬内盆踊りが有名ですが、3月にはつるし雛祭りも開催されています。この「つるし雛」の歴史や、他の地区での同様のお祭りとの比較などの調査・研究を通して、地域の文化やその発展について知りたいと思い、このテーマを設定しました。また、公開研究発表会や実際のつるし雛まつりでの展示を目指して、つるし雛の製作にも挑戦しました。

Ⅱ 実施計画

- 1. オリエンテーション
- 2. つるし雛の概要について研究
- 3. つるし雛の製作「羽子板」
- 4. つるし雛の製作「桃」
- 5. つるし雛の製作「ほおづき」
- 6. つるし雛の製作「巾着」
- 7. つるし雛の製作「三角火打」
- 8. つるし雛の製作(仕上げ)
- 9. 各テーマごとの調査
- 10. ポスター製作
- 11. 展示・発表準備
- 12. 発表

Ⅲ 調査・研究内容

私たちは講師の先生をお招きして、「つるし雛」 の制作に取り組むと同時に、以下の内容について 調査しました。

①つるし雛の歴史と由来

(3C 金子瑠亜 菅原桃音 成田綸 橋野亜里沙 藤田希望 柳沢珠梨那) つるし雛が始まったのは、江戸時代といわれて ます。その頃、特別裕福ではない一般の家では、 雛人形はとても高価なもので、なかなか手に入ら ないものでした。

しかし、生まれてきた子供の幸せを願う気持ちは皆同じです。そのため、お母さんやお婆ちゃん、 叔母さんから近所の人たちまで、 みんなで少しずつ小さな人形を作り、持ち寄って「つるし雛」が作られ始め、赤ちゃんの大事なお守りとして、とても大切にされました。 伊豆稲取では、もともとはツルシと呼ばれ特に名称はありませんでした。 つるし飾りは、子供が成長し7歳、成人、嫁入りといった節目を迎えると、新年のどんど焼きに交きあげてしまうため、古いものはあまり残っていません。 平成5年頃より稲取の婦人会の手芸講座にてツルシ製作を通じて見直され、「雛のつるし飾り」の名称をつけられました。

現代では、桃(長寿)、猿っ子(魔除け)、三角(薬袋香袋)を基本として50種の細工があります。これらを5列の赤糸に各11個の細工をつるし計55個にそろえ、これを対で製作することにより110の細工が吊されたものが基本型とされるのです。一般に直径30cmのさげわに170cmの長さで吊され、飾りの数は3、5、7、9などの奇数で組み上げられます。この理由は、縁起物であるため、割り切れる数字(偶数)を避けてのことです。古裂などを使い、鞠や雛などを制作しひもで繋いで吊していく、地元女性の和裁細工として受継がれて来ました。

②全国のつるし雛 (2A 似鳥双葉 2B木村遙香 佐藤梓 2C松山詩苑)

·山形県『傘福』

山形県の「傘福」は、開いた傘の下にぐるりと布をめぐらし、その傘の下に、様々な意味合いの縁起物を吊り



下げるのが特徴です。特に「酒田市」がつるし雛の産地として有名で、酒田まつり(山王祭)では、豪華な山車が練り歩きますが、このうちの1つ庄内藩や米沢藩の財政改革を支えたといわれる本間家の「亀傘鉾」において、傘の先に縁起物が吊り下げられた飾りが披露され、「傘福」はこれに由来しているのではと考えられています。

・静岡県『雛のつるし飾り』 静岡県では、古くから雛人 形などに使われる木工細工が 盛んで、現在でも多くの手工 芸品が作られています。



その中の1つとして、江戸時代後期より「つるし飾り」が作られるようになり、「雛人形」の代わりとして雛に飾られました。雛人形はとても高価であったため、高貴な家でしか購入することができなかったのです。家族や、親戚、近所の人たちが、少しずつ布の切れ端でお人形を作って持ち寄り飾られたことが、「つるし飾り」の始まりといわれ、子や孫の成長を願うやさしい暖かい心を込めた風習として、現在も大切にされています。稲取地区など吊るし雛で有名な観光地では、シーズンには多数の観光客でにぎわっています。

・福岡県『さげもん』 福岡県柳川のひなまつりに 飾る「さげもん」は、江戸 時代末期より、女の子が生 まれた家に「初節句のお祝



い」として、布の端切れで小物を作り飾ってお祝いしたのが始まりだとされています。縁起の良い小物が吊るされ、一つ一つ袋ものになって物を入れることができるのが特徴です。

「さげもん」は、ひな壇の両脇に飾られ、客人を 招いたお祝いの席で披露されました。家族・親戚・ 近所の方など、たくさんの人に祝ってもらった女 の子には、たくさんの幸せが訪れるといわれてい ます。

③一つ一つの作品の紹介(3B 兜森歩海 関椎奈)



*羽子板:女の子の遊び道 具。羽子板と羽根は「厄を 跳ね飛ばす」と言われ、健 やかな成長を願って飾られ

ます。

*桃の花:桃は邪鬼・悪 霊を退治し、延命長寿を 意味します。





*三角火打:この「三角」の 形に"病気に無縁であります ように"との願いが込められ ています。また、不運が起こ

らないように祈るお祓いとしての意味もあります。

*ほおずき:子供や女性のお守り。実や根に薬効があり、婦人病に悩まされないようにと願いが込

められています。また、「ほおずきちょうちん」とも言われ、この世を明るく照らし困難なく生きていけるようにとの意味もあります。





*巾着→お金が貯まるよう に、お金に不自由しないよう にとの意味が込められていま す。

④毛馬内地区のつるし雛について

(2B 黒崎世那 和田愛杜)

今年度つるし雛の講師をしていただいた山崎政 子さんに聞きました。

Q1 毛馬内地区のつるし雛の始まりはいつですか?

A1 2017年3月から始まりました。

Q2 毛馬内地区でつるし雛を始めたきっかけは 何ですか?

A2 「地域の賑わいを取り戻したい。」、「蔵や押し入れに眠っているおひな様を飾る機会を作りたい。」ということから市民センターを利用している手芸グループに協力してもらって始めました。

Q3 毛馬内地区のつるし雛のほかの地区と違う 所はどんなところですか?

A3 物や素材、形にとらわれず作り手が楽しんで 製作出来るものとなっています。

Q4 毛馬内地区のつるし雛まつりの活動はどのような内容ですか?

A4 期間中の見学と体験をしています。

Ⅳ おわりに

つるし雛そのものは長い歴史を持っていますが、毛馬内地区では比較的新しい取り組みであることが分かりました。また、今回の研究を通して、新しいイベントやアイデアで、より多くの人に毛馬内地区やこもせ通りの良さを知ってもらおうとする取り組みがあることがわかりました。

私たち高校生も、盆踊りのような長い伝統を持つ文化を守り継承していくと同時に、このような新しい活動にも積極的に参加し、地域の良さを発信していきたいと考えました。

最後になりますが、一年間、丁寧 に御指導くださいました、講師の山 崎政子さんに感謝 申し上げます。





代表者 3B 角 宏靖 指導者 神居恵悟・今川浩子

はじめに

鹿角市は、毛馬内のこもせ通りや八幡平の自然、そして今年、新たに誕生した道の駅「新・湯の駅おおゆ」などを筆頭に、地元の人にとっても観光に訪れた人々にとっても魅力的な場所やものがたくさんある市である。今年度のかづの学では、株式会社ファストコムさんの協力を経て、鹿角市の人々や施設を取材し、記事を書いてWEBサイトで発信することで、鹿角市の魅力を発見し、多くの人に知ってもらうことを狙いとしている。この取材活動の中で、私たち自身も普段当たり前に暮らしている鹿角の魅力を再発見できればと考え、研究を行った。

I テーマ設定の理由

1. テーマ設定の理由

鹿角の魅力を発見・発信するため、各事業所を訪問し取材する。株式会社ファストコムさんとの連携により、次の目標を設定した。

- ① どんな情報を発信すれば、鹿角市に興味を持って もらえるか。
- ②情報発信メディアの制作方法とノウハウを学ぶ。
- ③鹿角発のメディアを活性化させることで、鹿角を 盛り上げる。

Ⅱ 実施計画

5月 オリエンテーション 講義のねらいや内容を確認 取材場所の下調べとポイントの確認

7月 取材先の選定・決定をする。

8月 取材の実行

9月~ 記事作成と発表準備

Ⅲ 調査・研究内容

夏季休業中、事前に取材交渉をした10事業所に、 それぞれ班ごとに訪問し取材した。鹿角の地域活動 に主体的態度で参加することで、地域活性化が実現 する仕組みを体験を通して考察し、地域貢献の方向 性を探った。

※株式会社ファストコム…鹿角の地元企業からの依頼により、鹿角市にWEB・メディア制作の事業所

を設立した。2017年5月8日 まちなかオフィス内に鹿角クリエイティブオフィスが設立された。

1班 2年 小舘陽菜・新林万葉こもせ通り・子ども未来センター

毛馬内は城下町として発展していた。こもせ通りは商店街から月山神社へ続く通りのことであり、こもせとは、アーケードのことである。アーケードとは日光や天候をしのぐ屋根のことである。毛馬内商店街は城下の武家屋敷としての様式が残っていて、現在もそのような建物が数多く残っている。毎年、国の重要無形民俗文化財に指定されている毛馬内盆踊りが開催される。

子ども未来センターは、コモッセの中にある託児施設で、鹿角市未来事業団のうちのひとつである。 鹿角の子どもを健全に育てることを目的としている。9~22時の間で、1時間400円で利用可能であり、プレイルームは県内、県外問わず誰でも利用することができる。他にも多くの施設が育児に力をいれているため、鹿角市が県内で一番育児がしやすい市と言われている。福祉施設の窓口にもなっている。

2班 2年 福島 和・米田礼羅 Flower×Instagram・北限のピーチ姫

鹿角にもインスタグラマーがいる。鹿角市花輪在住の suzu さんはお花についてたくさんの投稿をしている。娘に「ボケ防止のためにやってみたら?」と言われたのがきっかけ。他国の人からコメントやダイレクトメッセージをもらうこともあり、翻訳アプリを使ってお話をしている。suzu さんが一番好きな花はバラ。インスタグラムをやっていて大変なことは、投稿するときに花の色などが被らないように配置を考えたり、お花の管理をすることだそうだ。病気や害虫から守るためにこまめに薬を使ってケアしている。

北限の桃は、平成15年に商標登録された。山梨県などに対抗するため、出荷時期をずらして遅くに収穫している。主な品種は「川中島白桃」。「あかつき」から花粉を取り、ビッグダディやラブタッチをして受粉させる。

3班 3年 殿村志恩・境 雅史・兎澤珠利 移住コンシェルジュ取材・道の駅あんとらあ

今、田舎への移住が増えている。秋田の北東に位

置する鹿角市も例外ではない。鹿角市役所には移住コンシェルジュという人たちがいる。彼らも鹿角の町に魅入られ移住してきた人たちだ。今回は鹿角への移住を考えている人を支える3名を取材した。移住コンシェルジュの方々に鹿角市にきた理由を聞いてみた。鹿角の地形、育ち主人の出身地、父が大湯出身等移住した理由は様々だが、共通して鹿角は自然が豊かだし、静かでストレスが少なくとても過ごしやすいと言っていた。コンシェルジュの方々は魅力あふれる町鹿角をもっと広めたいと言っていた。私たちも持てる力を駆使して、この町の魅力を広めていきたい。

あんとらあでは花輪ばやしの伝統や歴史を伺いたいと思い訪問したが、屋台の保存をしているのみで伝統等詳細はわからないとのことであった。花輪ばやし若者頭協議会が詳細を知っているとのことであった。

4班 3年 川村大翔・角 宏靖・鎌田涼平 八幡平ポークはアツい!・伝統の湯、後生掛温泉

農事組合法人八幡平養豚組合を訪れ取材した。 取材しようと思った理由は、メンバーの出身地であり、なおかつ八幡平ポークという名前は鹿角市内外で有名だからだ。八幡平ポークは予想外に他の場所で育てられている豚の方が多いということだ。育てられている場所によって、オランダの豚であったり三元豚であったりと豚の種類も違っていて驚いた。

豚肉を販売するにあたって、豚を健康に成長させることがとても大切である。産まれた豚を離乳させ、子豚期の豚から肥育期の豚になり、そして出荷となる。母豚は1年間に2.5回子豚を産むが、1回のお産でなんと14~14.5頭産む。つまり1年間で28~30頭産むことになる。

後生掛温泉は、年配の方から子どもまで幅広い年齢層の方が利用している。日帰りで訪れる人は平日で40~50人、土日で150~200人、旅行で訪れる人は1日65~80人である。湯治場(オンドル)という温泉の熱で温められた空間に泊まり、長い時間をかけてからだの不調な部分を治す方は150人ほどいる。ピークはゴールデンウィークや紅葉がみられる10月、年末年始である。温泉の熱を利用してつくられた名物の黒たまごもとても美味しかった。半熟もあるので、どちらも味わってみてほしい。旅館に泊まる際は早いうちに予約をしないと、とれない場合があるので注意してほしいとのことであった。

5班 3年 小板橋穂乃佳・奈良七海 新、湯の駅おおゆ・大湯温泉夏祭り

湯の駅・おおゆは、平成30年の4月にオープンした鹿角第2の道の駅である。2020年東京オリンピックのメイン会場の新国立競技場を提案した隈研吾さんが価値の高い施設として、デザインを手がけてくださった。およそ40度の足湯があり、つかりながら

自然をあじわってもらえるよう、子どもでも服を着 たまま入れるような仕組みになっている。冬はぬる くなった水を雪をとかすために活用されている。休 日には、平日約26.7倍の人が訪れる。鹿角牛と八幡 平ポークのハンバーガーが一番の人気であり、さら にソフトクリームも人気で、特に「カシス」が一番 の人気である。手ぶらでバーベキュー(土日限定) ができるサービスもある。様々なイベントが開催さ れ、7・8・9月は月に3つのイベントが決まってい た。ゴールデンウィーク、連休はもちろん、冬には 雪のイベントが用意されている。1年で約30種類の さまざまなイベントを目標としている。10年後くら いには花見ができるかもしれないので、楽しみにし てほしいとのお話だった。湯の駅おおゆは、年を経 るごとに新たなイベントや楽しみが満載で、大きな 期待が寄せられている。

大湯温泉夏祭りについて、こけし館に行ってお話 を聞いてきた。大湯温泉夏祭りは、昭和24年に始ま り、今年の開催で69回を迎えた。毎年7月の第4 週(丑の日) に開催されており、地域の協力および 観光客が気軽に来ることができる日程で組まれてい る。花火師は土崎の「須藤火工」であり、177 社、 23 区の自治会から花火が提供される。今年は、昨年 よりも観光客数が増加し、7月29日時点で1万2千 人もの人が来場した。湯の駅おおゆができたことが 来場者が増えたきっかけにもなっている。雨天で花 火があげられないときは、日程の変更はなく、翌年 に持ち越しとなる。クライマックスに差し掛かった ところで、たくさんの花火が連発であげられるのが 花火大会の見所である。是非一度足を運び、花火ひ とつひとつに職人が込めたメッセージを一緒に味わ ってほしい。そして何より花火のきれいさをより近 くで見てほしい。伝統ある夏祭りが途絶えることの ないよう、私たち自身も地域の一員として見守って いきたいと感じた。

₩ おわりに

取材活動を通じて、普段は当たり前のように見ている光景の中に様々な人の思いがあり、鹿角を魅力ある地域にしようとしているのだということが分かった。さらに、様々な人の取り組みや思いを発信していくことは、地域の活性化に不可欠な取り組みである。取材した内容を記事やプレゼン資料にまとめる際には、「発信する・伝える」ということの難しさを痛感した。株式会社ファストコムさんの協力を経て、人に伝えるということの大切さやそのコツを学ぶことができたことは、今後の活動にとっての大きな財産となった。あらゆるテーマにおいて、人に伝えるということは重要な要素である。今回学んだことを生かし、今後も鹿角の魅力の再発見、そして発信へとつなげていきたいと思う。

 代表者
 3 C
 栗木
 絵美奈

 指導者
 菅原
 真紀子

はじめに

戊辰戦争から 150 年を迎える今年、NHK 大河ドラマは『西郷どん』が放映され、福島県会津若松市では年間を通じて戊辰戦争関連のさまざまなイベントが開かれている。鹿角地域でも、小坂町郷土館、鹿角市先人顕彰館などで特別展が開かれている。

10月にコモッセで開催された講演会『戊辰戦争の中の鹿角 ~150年の時を超えて~』には、県内外から多くの人が訪れた。それほど関心を集める内容だったにも関わらず、私たち高校生は戊辰戦争が鹿角に及ぼした影響ついて、あまりにも知らなすぎるのではないか?

私たちは、地域の歴史として戊辰戦争を知り、語り継いでいきたいと考え、このテーマを設定した。

I テーマ設定の理由

戊辰戦争から 150 年を迎える今年、各地でさまざまな催しや展示が行われ、歴史を検証する動きが活発である。そこで、鹿角の歴史を振り返り、明治維新という大きな変革の流れの中で当時の鹿角がどのような役割を果たしたのか、より多くの人に伝えるため、このテーマを設定した。日本の歴史の中で、戊辰戦争とは何だったのか、戊辰戦争は、鹿角にどのような影響を及ぼしたのか、故郷の歴史を知り、感じたことを多くの人に向けて発表したいと考えた。

Ⅱ 実施計画

- 5月 幕末の日本について 戊辰戦争が起きた背景について 鹿角の歴史 鹿角四姓について(1年生と合同)
- 7月 鹿角の歴史 鹿角の鉱山と産業について (1年生と合同)
- 9月 東北における戊辰戦争 発表テーマの検討
- 10月 発表準備(アンケート作成) 鹿角市先人顕彰館見学 コモッセの講演会聴講 アンケート集計
- 11月 発表準備
- 12月 発表準備・発表練習

Ⅲ 調査・研究内容

はじめに、これまで授業で習った知識を確認しながら、幕末の日本について、なかでも戊辰戦争が起きた背景や戦争の推移、戦後処理について大まかに復習したが、思いの他忘れている部分が多かった。また、その作業の中で、近・現代史のうち明治維新そのものについては多くのページが割かれているが、戊辰戦争に関わる記述は多くないことに気付かされた。特に、鹿角地域に関する記述は皆無で、より地域に根ざした専門的な文献にあたる必要を認識した。

次に、鹿角の歴史、鹿角四姓、鹿角の鉱山と産業などについて、馬淵大三氏による講演を聴いた。2 年生2名は昨年も受講していたが忘れている部分も多く、歴史を再認識できたのは幸いだった。

その後、東北における戊辰戦争について、いくつかの文献にあたりながら調査を進め、発表内容の検討を進めたが、題材が幅広く、テーマを絞ることができなかった。また、文献によっては真偽が定かでないものもあり、検証が必要だということがわかった

発表準備としては、文献の調査の他、校内アンケートを作成し、戊辰戦争に関する私たちの知識がどれくらいあるのかを調べることとした。

また、鹿角市先人顕彰館で開催されていた『戊辰戦争の中の鹿角 ~150年の時を超えて~』を見学した。この展示では、毛馬内や花輪の個人宅に残された戊辰戦争に関わる品が数多く出品されていた。

戊辰戦争時、新政府軍の将校は歌舞伎の獅子舞の ような「黒熊」(こぐま)「白熊」(はぐま)「赤熊」



(しゃぐま)というかぶり物をしていたが、盛岡藩 家老、楢山佐渡の「黒熊」が展示されていて驚いた。 楢山佐渡は、姿絵にも黒熊を着用して描かれている ものがあり、調べてみると旧幕府軍でも大将などが 着用していたようであった。新政府軍の軍装との先 入観は、映像作品の影響だと考えられる。

また、先人顕彰館向かいの伊藤家の当主、伊藤文七(当時 17歳)が使ったという槍は、思いの外長く、これを高校2年生の年齢で振り回して戦う、というのは現代からは全く想像できなかった。

ほかにも当時の鎧、住所や氏名を記した木札などを見ることができた。戦で命を落とした場合、この木札で確認したのであろう。現代でも自衛隊をはじめ各国の軍隊において兵士の個人識別用に認識票が使用されている事を考えると、戦争はいつの時代でも個人の尊厳を踏みにじる行為だと虚しく感じた。

そのほか、大館城攻略に参加した毛馬内館主桜庭家中の画家、田中北嶺が描いた『戊辰役図絵』(鹿角市文化財)の拡大複製パネルとその解説(栗山文一郎氏による)の展示もあり、今回の発表のために非常に参考になった。

10月21日にはコモッセで高野豊四郎氏(岩手県 滝沢市元教諭。 『盛岡藩戊辰戦争』 などの著者)と佐 藤友信氏(地元歴史研究家)の講演会『戊辰戦争の 中の鹿角 ~150年の時を超えて~』があり、貴重 な講話を聞くことができた。高野氏の講演では、歴 史の見方について、明治称賛 (明治を褒め称える)、 薩長史観 (薩摩、長州の立場から見た歴史の見方) から、佐幕史観(幕府を擁護する)、雪冤史観(せつ えんしかん・無実の罪であることを明らかにするこ と) まで様々であることに言及があった。 高野氏に よれば、東北は概ね雪冤史観から脱却できずに、薩 長土肥に対する怨念にとらわれているという。鹿角 における戊辰の怨念は、それよりやや複雑なもので はあるが、高野氏の、歴史に謙虚に向き合い、遺恨 を超えて多様性のある社会を実現するべき、という 考えには共感した。

本校でのアンケートでは、戊辰戦争を知っている 生徒は6割、そのほとんどが学校の授業で知ったと 答え、語り継いだものを聞いたと答えた生徒はゼロ だった。また、戊辰戦争で秋田が戦場になったこと を知っているのは3年生1人のみ。 鹿角が南部藩領 であったことを知っているのは全校で20人(全校 の約1割程度)。怨念がどうというよりは、歴史を 知らない、という結果である。このことから、私た ちの発表は、地域の歴史を知らせること、その上で、 怨念ではなく、地元への誇りを持って未来に進んで いくことをテーマにすることに決めた。鹿角は、縄 文時代から人々が暮らし、豊かな自然、、文化があり、 とくに地下資源が豊富だったが、それ故に苦難の時 代もあった。それを、先人が苦労して乗り越えてき たことを誇りとし、現在の鹿角が抱えるいろいろな 問題に諦めることなく取り組んでいくことこそが重 要である。

Ⅳ おわりに

戊辰戦争という題材は、非常に幅広く、どこに焦 点をあてるかが大きな課題だった。

戦争をテーマとするなら、戊辰戦争は国内最後の 大規模内戦である。諸外国が局外中立(国際法上、 中立の立場をとる事)でなかったら、今日の日本は 全く違う形だっただろう。また、私たちがイメージ する戦争と当時の戦争の違いや、旧幕府軍と新政府 軍の軍装、兵力の違い、士農工商の違いによる戦争 への関わり方の違いや感情の温度差も興味深い。

政治に目を向けると、佐幕か勤王かで揺れた盛岡藩、奥羽越列藩同盟を離脱した秋田藩、それぞれを掘り下げれば、東北各県の動きから奥羽越列藩同盟の成立、ひいては幕末の動乱までさかのぼって述べねばならない。また、鹿角は戊辰戦争後、盛岡藩からいくつかの経緯を経て旧敵の秋田県に編入される。その背景も、新政府の財政運営と絡み一言では述べられない。

文献について言えば、戊辰戦争はこれまでいろいろな小説やドラマの題材とされているため、虚実混合であること、雪冤の感情から偏向があること、それらを検証していくことだけでも一つのテーマとなり得るほどだった。

最後に、私たちは、今の鹿角だからこそ、盛岡藩 秋田藩、双方の立場から戊辰戦争を検証し、公平な 歴史観を育む事ができると考えている。そして、地 域の歴史を語り継ぎ、恨みではなく誇りとして、今 日の様々な課題に粘り強くあたっていくことが、こ れからの私たちにできる地域貢献なのではないかと 考えている。

参考文献

●石ノ森章太郎『マンガ日本の歴史 42』(中央公論社、1993 年)●鹿角市『鹿角市史 第二巻(下)』(鹿角市、昭和 62 年)●加藤貞仁『戊辰戦争とうほく紀行』(無明舎出版、1999 年)●毛馬内町割り四○○年祭実行委員会編『毛馬内町割り四○○年物語知ろう・語ろう・伝えよう 毛馬内』(毛馬内町割り四○○年祭実行委員会、平成 20 年)●佐々木克『戊辰戦争』(中央公論新社、1977 年)●佐藤竜一『それぞれの戊辰戦争』(現代書館、2011 年)●全国歴史教育研究協議会『日本史用語集』(山川出版社、2014 年)●安村二郎『ふるさと鹿角』(鹿角市文化財保護協会、平成 22 年)●柳澤弘志『鹿角の歴史案内』(無明舎出版、2003 年)●ユニプラン編集部・鈴木正貴・橋本豪編『戊辰戦争年表帖』(株式会社ユニプラン、2013 年)

協力

●鹿角市先人顕彰館

【文化④】

代表者 3 A 佐 藤 雅 齊 藤 恭 子 指導者

はじめに

いわゆるブックスタートは、1992年に "Share books with your baby!"のキャッチフレーズとと もに、英国で始まりました。赤ちゃんと絵本を開 き、読み、聞かせることで楽しいひとときを分か ち合うことを目的として始まったこの活動は、日 本が第2か国目として取り組み始めて以来、世界 各地に広がっています。

忙しい現代人だからこそ「絵本」を通じて赤ち ゃんと改めて向き合う時間を持てるように願い、 始まったのが"ブックスタート"だと言われてい ます。

I テーマ設定の理由

私たちは、幼い頃から慣れ親しんできた「絵本」 について考えていきたいと思いました。

そこで、保育園児や小学生、高校生、子育て世 代、孫育て世代に「思い出の本」「おすすめの本」 などのアンケートを取りながら、鹿角または鹿角 以外の地域における「絵本の魅力」について探る ことにしました。

Ⅱ 実施計画

- 1 オリエンテーション
- 2 グループ別オリエンテーション
- 3 絵本の定義、人気絵本ランキング、アンケー 卜用紙作成
- 4 アンケート調査
 - →錦木保育園・十和田小学校での実施
- 5 錦木保育園保護者への依頼
- 6 読み聞かせ研修
- 7 読み聞かせ
 - →錦木保育園・十和田小学校での実施
- 8 アンケート分析
- 9 まとめ
- 10 発表

Ⅲ 調査·研究内容

1 オリエンテーション (1) 全体オリエンテーション

十和田高等学校体育館において、全校生 徒を対象とした「ふるさと教育の概要」の 説明を受けました。

(2) グループ別オリエンテーション

①絵本の定義

鹿角の絵本について考え始めた際に、そ もそも「絵本」とは何か、という疑問が生 まれました。そこで、2年男子2名が「絵 本の定義」についてインターネットを用い て調査し、まとめました。

②人気絵本ランキング

私たちが住んでいる鹿角ではどのような 絵本に人気があるのかを考えていくために、 まず、全国で人気がある絵本について、2 年生女子2名がインターネットを用いて調 査し、分析することにしました。

③アンケート用紙

3年生が中心となって、幼稚園児、小学 生、高校生、子育て世代、孫育て世代への 絵本アンケート項目のリストアップし、記 入する用紙を作成しました。

- 世代(学年)
- ・出身地
- ・1ヶ月の読書量
- 好きな本または思い出の本
- おすすめしたい本
- 2 保育園児、小学生、高校生、子育て世代、孫 育て世代への絵本アンケート調査
 - ①保育園児

錦木保育園 年長組 (10/9実施)

②小 学 生

十和田小学校 1, 2年生(7/10実施)



十和田小学校でのアンケートの様子 ③高 校 生

十和田高校生 1 ~ 3年(夏休み前実施)

④子育て世代、孫育て世代

錦木保育園父母、祖父母 (11月中旬回収)

3 読み聞かせ研修

10月23日には「立山文庫継承十和田図書館」 で秋田県子ども読書支援センターの田丸美穂様か ら「絵本」についてお話を伺いました。

自分自身が子どもの頃に好きだった絵本を思い出しながら、 絵本の作られ方について考え、 そして子どもにとって大事な絵本について理解を深めました。

その後、実際に読み聞かせを 体験しました。

※ここで用いた絵本は十和田 高校図書室所蔵のものです。



4 読み聞かせの実施

①錦木保育園訪問

11月20日には「錦木保育園」で園児に読み聞かせを行いました。準備していた絵本が年長さん向けだったので、年中さん年少さんには少し長かったり、難しかったりした



かもしれませんが、絵本を見ながらしっかり聞いてくれました。年中さんでは、聞いた絵本の中で『たまごにいちゃん』を読んでくれたおにいちゃんと重ね合わせてか、最後まで「たまごにいちゃん」と言いながら男子生徒たちを慕っている男の子たちがとても印象的でした。

②十和田小学校訪問

11月27日には「十和田小学校」で1、2年生の児童に読み聞かせを行いました。

1年生では、夏に実施したアンケートで人気の 絵本だったバムとケロシリーズの中から『バムと ケロのさむいあさ』と『バムとケロのもりのこや』 を読み聞かせしたところ、子どもたちには様々な 反応が見られ、読み聞かせた生徒たちも大変嬉し かったようです。





☆ 1年生への読み聞かせの様子 ☆ 2年生では、少し長めの絵本を読み聞かせしましたが、中でも装丁がきれいな『にじいろのさかな』の色使いに夢中になっている女の子たちも見られました。



☆ 2年生への読み聞かせの様子 ☆ ※ここで用いた絵本の中には鹿角市立図書館から お借りしたものもあります。

₩ おわりに

幼い頃にはおかあさんやおとうさん、そしてお ばあちゃん、おじいちゃんに読んでもらったこと のある絵本。しかし、園児から小学生、中学生、 高校生と成長していくうちに、こころの拠り所で あったはずの絵本からも足が遠のいていく現状 が、少なからずこの鹿角でもあるということがわ かりました。

本校の生徒の約半数は高校を卒業したら就職し 社会人となります。高校を卒業して間もなく、お かあさん、おとうさんになる人も少なくはありま せん。その時に自分たちがおかあさんおとうさん にしてもらったように、ひざの上にのせて優しい 声で聞かせてもらう。それだけで安心し、笑顔に なる。あかちゃんにとって、絵本はそんな魔法か もしれません。また、絵本は、ぬくもりと愛情を たっぷりと感じることのできる幸せな時間を親子 にもたらしてくれると信じています。

そして、いつか絵本を開くときには、私たちの 読み聞せを思い出してみてください。



『バムとケロのさむいあさ』島田 ゆか 最後になりましたが、私たち「鹿角の絵本あれ これ」のアンケート調査や読み聞かせ、読み聞か せ研修の際にお世話になりました、錦木保育園の皆様、鹿角市立十和田小学校の皆様、秋田県子ども読書支援センターの田丸美穂様、鹿角市立図書館の皆様、お忙しい中ご協力いただきまして本当にありがとうございました。

十高演劇クラブ -演劇「遣い姫」-

代表者 3 C 小 沼 陽 和 指導者 濱松崇子·泉谷優里

はじめに

鹿角にはたくさんの伝説や伝承がある。佐多六とシロ、錦木塚物語、だんぶり長者物語、八郎太郎物語、猿の嫁になった娘などだ。鹿角の地名、神社仏閣の由来や歴史を知る上でどれも興味深い。

数々の鹿角の物語を演劇で表現することによって、私たちが暮らす鹿角への理解を深めようと設定した。また、演劇を通して表現力を付け、今後の生活に生かせればと思う。

I テーマ設定の理由

奈良時代の和銅元年(708年)のころ尾去沢 鉱山が発見されたとのことだが、今回取り上げた 「遣(つか)い姫」の物語は、この鉱山発見の物 語の一つとして伝えられている。由緒あるこの鉱 山は今はもう閉山してしまったが、そこで採れた 金は奈良東大寺の大仏鋳造や中尊寺に使われたと いう伝説もあるほどだ。

私たちは、単に物語を知るだけでなく、その背景も理解し道具づくりやBGMの研究を通して、演技につなげていこうと考えた。演じる楽しさや、役者だけでなく裏方も含めて、みんなで一つの作品を作り上げていく体験も一緒に味わっていきたい。

Ⅱ 実施計画

- (1) オリエンテーション…1h
- (2) 演目選び、セリフ練習…2h
- (3) 人物研究、脚本づくり…3 h
- (4) 演技練習、大道具・小道具づくり…9h
- (5) 発表会



「けして怪しい者じゃありませんっ」

Ⅲ 調査・研究内容

秋田県鹿角地域振興局のホームページに、 鹿角地域の伝説を紹介しているページがあ る。その中から「錦木塚物語」「遣い姫物語」 「天狗にあこがれた太右エ門」の3つを取り 上げて、どの物語を演劇にするか話し合った。 その結果「遣い姫物語」がおもしろそうだ ということでこの演目に決定した。

【あらすじ】

昔、尾去沢の近くに不思議な女が現れ、近くの山や谷を観察しながらぶらぶら歩き回っていた。実はその女は、仙台の金華山にいる神様からの遣いの姫だった。美しく物静かで上品な感じのする女であったが、村の人たちは近づきがたく、ただ遠くから彼女を見ているだけであった。

ある日この女は尾去沢に住む百姓の清助 という若者の家を訪れ、自分をここに泊め てくれるよう頼む。若者はこの女の存在を 以前から村人から聞いて知っていたが、も し泊めて大変なことにでもなったら困ると 思い断っていた。

そんなある日のこと、女は清助に、「あの 山の下を掘ると金が出る」と言う。最初断 っていたが、そのうちこのきれいな女と一 晩過ごしたいと思うようになった。

清助は女が訪ねてくると部屋に招き入れたが、女は怒り目の前から消えてしまった。 清助はひどく後悔し、女が指示した場所を掘ると、金を含む石が出てきた。その金のお陰で清助は立派な人物になったということだ。

このホームページの情報から、それぞれの 登場人物の人物像を皆で想像し、キャラクタ 一設定をしていった。



【登場人物】

清助(二十歳くらいのまじめな青年、百姓) 遣い姫(十六歳くらいの女、金華山の神様 の遣い)

金華山の神様

村人1、2(二十歳くらい、男) 村の女1、2(二十歳くらい、女)

配役は生徒の適性や性格を考慮して皆で協 議をして決定した。

【配役】

清助……小沼陽和

清助の心の声……西村翼

遣い姫……石川遙

金華山の神様……池田珠里

村人……西村翼

村の女1……安保和香

村の女2……松宮知美

ナレーション……松宮知美

脚本づくりは、主に松宮知美さんが、手直しは 担当職員で行った。

もちろん大道具小道具の制作や、音響、照明についても毎回の練習や話し合いを経て決定していった。小道具づくりでは、かつての十和田高校演劇部の部室から使えるものを選別し、足りないものは段ボール等で制作した。

【大道具小道具製作:主担当】 黑沢佳那子、沢田悠成、田原至恩、 花田雄一朗



大根制作中



↑練習風景①

【スタッフ】

黑子……萩原佑弥、黑沢佳那子

音響……齊藤悠菜、佐藤奏

照明……沢田悠成、田原至恩、花田雄一朗

発表会前のリハーサルでは、音響、照明、 黒子の細かい確認を綿密に行い本番に備え た。音響はYouTube に頼るところが多かった が、よく考えて選曲したと思う。



練習風景②



「こ、これが金か?!」

Ⅳ おわりに

感想として、限られた時間内で一つの作品を作り上げるのに、計画することの重要さを感じた。ただし、それぞれ素人ながらも工夫を重ね、発表会近くになると個々の意見も活発になるなど、うれしい成長も見られた。

発表会を終えてみて、尾去沢鉱山発見の物語を 自分たちの手で再現し、理解を深めることができ た。また、表現力という点では、普段の生活では 見られない特技や長所を発見したり発揮すること ができたことがなによりの成果だ。

中でも本番では、観客の反応を舞台で直に感じるという快感を味わうことができ、いい経験になったと思う。十和田高校生にとって尾去沢鉱山という身近な題材を扱い、より地域に親近感を持つことができたと思う。この経験を将来、それぞれの人生の舞台で役立てていって欲しい。

H30ふるさと教育「かづの学」公開研究発表会 タイムテーブル(12月20日)

開会式 校長、生徒会長あいさつ(9:20~9:30)					
発表	No.	テーマ	開始時刻	備考	
	1	1年生「研究の基礎」領域の発表	9:30		
口頭	2	鹿角の農産物の六次産業化について考える	10:20		
発	3	「新エネルギーパークかづの」における進展と現状から地域未来の展望を探る	10:35		
表	4	水産資源の活用法を探る!!	10:50		
	5	鹿角の農地の保全・復興について	11:05		
講	評	午前の口頭発表の講評 他(11:20~11:30)			
		昼食11:30~12:15 昼休み中にポスター自由閲	<u></u>		
発表	No.	テーマ	開始時刻	備考	
口頭	6	鹿角おもしろスポット取材	12:15		
発	7	戊辰戦争150年〜戊辰戦争と毛馬内〜	12:30		
表	8	鹿角における「絵本」あれこれ	12:45	朗読実演あり	
実演	9	十高演劇クラブ「遣い姫」	13:10	ステージで実演あり	
	10	鹿角りんご大好き!	以下の時		
ポ	11	鹿角の土壌を調べる	刻に一斉		
スタ	12	水産資源の活用法を探る!!①	開始しま す		
7	13	水産資源の活用法を探る!!②	13:40		
発	14	水産資源の活用法を探る!!③	13:55		
表	15	鹿角スキーインターハイを盛り上げよう!	14:10		
	16	つるし雛		展示あり	
講	評	午後の口頭発表・実演発表・ポスター発表の講評および全体講評(14	4:30~14	:40)	
閉会式 生徒会長、校長あいさつ (15:00終了予定)					

講 評

鹿角市総務部 政策企画課長 阿部 正幸 様

今日はありがとうございました。今日の発表を聞いて鹿角 のことを考えてくれているのだとうれしく思いました。

1年生の発表について

毛馬内盆踊りとかづの元気フェスタに関する発表は、体験中心、巡見使ツアーと、馬渕さんの講話に関する発表はまさに研究という印象であった。毛馬内盆踊りに関しては、発表する際にもう少しゆっくり発表してはどうかと思いました。 実際に体験をしてくれて、自分に何ができるかを考えてくれたという点が良かった。鹿角市は葛飾区と友好交流を行って



いて、来年9月の葛飾の盆踊りには毛馬内盆踊りも登場する予定ですので楽しみにして頂きたい。 鹿角元気フェスタの発表については「コミュニケーションが大切」「自分の仕事をみつける」という意見が出たことから、貴重な機会になったのだろうと思う。

巡見使ツアーの発表については、スライドが早くて、もう少し、調べたことを伝えてあげるとよい。 調べた所をマップ化してはどうか。

鹿角四姓のルーツについての調査は、自分も知らなかったような歴史的な内容も紹介されていて大変面白かった。せっかく十和田高校がこの地にあるのだから、ぜひストーンサークルもテーマとして取り上げて欲しい。

「鹿角の農業の六次産業化について考える」

実際に現場に行って調べるという調べ方が良かった。調理に取り組んだ際の、農家の抱える課題を解消するという視点が不足していたとの反省があったが、「作ることに夢中になってしまった。」という点は高校生らしくてほほえましくもある。「私たちにできることが確かにある。」と思って頂けてうれしい。

「『新エネルギーパーク鹿角』における進展と現状から地域未来の展望を探る」

発表にあったとおり、本当に鹿角市はエネルギーに恵まれている。ぜひ地産地消の仕組みを実現したい。風力について説明があったが、鹿角では電線に新たにつなぐことができない状況であることがネック。そのため、鹿角市では自家消費を進められたらと思う。

「水産資源の活用法を探る!!」

堂々とした発表で素晴らしかった。午後のポスター発表も楽しみである。

「鹿角の農地の保全・復興について」

「こんなことをやりました」という説明から、「なぜこのようなテーマにしたのか」という説明に入っていく点が面白かった。農地を借りやすくするアイディアが良かった。また、そもそもなぜ農業に従事する人が少ないのかという点まで考えていた点が良かった。

まとめ

市としては、かづの学をやっていただけるだけでありがたい。それが市の発展につながると思う。

秋田県生涯学習センター 社会教育主事 川田 貴之 様

今日は発表一日お疲れ様でした。心のこもったプレゼン テーションに感動しました。皆で協力して研究している所 に感心した。午後の発表について講評します。

「鹿角のおもしろスポット取材」

地域のこれまでの魅力もあれば、新しい魅力もあり、いろいろと調べていて良かった。プレゼンテーションがはきはきして良かった。また、企業と連携して取り組んだところもよかった。



「戊辰戦争150年」

アンケートによると鹿角が南部藩であったことを知っていた人が学年に20人ほどしかいないとのことであったが、地域の歴史的な経緯は大切にして欲しいので、よい研究だった思う。高校生には実感がないかもしれないが、現在でも人によってはこの「戊辰戦争150年」は微妙なところがある。そこに真正面から切り込んだところがすごい。

鹿角の面白おもしろスポット取材も、戊辰戦争150年も、「自分たちで調べて、こうでした。」という所はよく伝わったが、それを、これからどう活かして行くかが大切である。

例えば、角館高校では生徒が武家屋敷を研究し、観光客に案内する活動をしている。ここ鹿角ではこも せ通りがあり、中学生が同じような活動をしているが、皆さんは高校生なので、さらにバージョンアッ プをお願いしたい。

「鹿角の絵本あれこれ」

テーマも面白く、読み聞かせもあって良かった。「鹿角の〜」というテーマなので、鹿角の施設を対象とするだけでなく、鹿角の作家の絵本や、鹿角を題材にした絵本の研究もしてみてはどうか。もしそういったものがなければ、自分たちで鹿角に関する絵本を作るのはどうか。「戊辰戦争150年」とのグループとのコラボなどで、地域の歴史を子どもたちに伝えることも可能だろう。

「十高演劇クラブ」

現代風のアレンジが良かった。演技など大変良く頑張っていた。ナレーション、機材の関係もあるかと 思うがもっとクリアに聞こえるとさらに良い。大変面白かった。

金が高価なものという考えがなかった時にこのようなお話があったんだよと地域の子どもに伝えて欲しい。今後も演劇クラブに頑張って欲しい。

ポスター発表について

「鹿角りんご大好き!」

チームワークが良く、作った料理もおいしそうであった。

「鹿角の土壌」

実験の成果が発表され、とても説得力があった。その土地に適した作物がなにか、という可能性を感じた。

「水産資源の活用方を探る!」

丁寧に調べられていた。ヒメマスのグループの、後輩に次の課題を託すようなプレゼンテーションも 良かった。新聞の切り抜きの展示が説得力があった。

「鹿角インターハイを盛り上げよう!」

はじめに思い描いていたことができなかったが、地図など、それ以外のことでやろうとしていて良かった。

「つるし雛」

作品展示が良かった。ポスターをめくりながら発表するスタイルが興味をひいて良かった。毛馬内のつるし雛祭は予想よりも新しいものであった、という率直な感想が良かった。

全体として、プレゼンテーションは、大人でも難しいので、内容はもちろんだが、プレゼンの仕方を 学ぶことにも意義がある思う。下を向いて原稿を見たり、ポスターの方を向いて話したりして十分に伝 わるだろうか。プレゼンテーションの仕方の向上を今後も頑張ってみて下さい。

全体について

今日の発表は本当に丁寧に調べられていて驚いた。ここから学んだことを、行動にどう結びつけるのかが大切である。雄物川高校の例を紹介すると、雄物川高校でもこのような研究をやっていて、地域の人とスイカソフトクリームを作っている。これは、ある生徒がスイカ農家でのアルバイトで、スイカのジャムをソフトクリームに使うことを提案して始まった。雄物川高校でもこのかづの学と似ている活動があるが、大切なのはここからで、雄物川高校では、生徒たちが卒業後も関わっている。卒業生が立ち上げた工房があり、その工房がこのプロジェクトを支えている。

今回のかづの学でも、地域の方々や企業との連携があったが、さらに今後は大学や専門機関とつながることを考えてもよいと思う。

その例としては、新屋高校では、近くにある公立美術大学とのコラボで地域の景観の研究をしている。 鹿角市は青森や岩手にも近いので、県外の大学でも良いだろう。

かづの学で学んだことは大人になっても役立つことが多い。できれば鹿角に残って欲しいというのが 地域の希望ではあるだろうが、就職、進学で地元を離れることもあると思う。それでも、どの地域に行 くことになっても、今回発表したような視点でそこで暮らして欲しい。「どんな地域か」「なにができる か」など、その地域に暮らすことは、その地域に興味をもって生きるということなので、このかづの学 で学んだことを財産にして頂きたい。素晴らしい発表会に参加させて頂いてありがとうございました。

公開研究発表会の様子(平成30年12月20日)





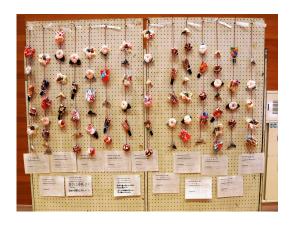












生徒のワークシートから

〇自分の研究に関する自己評価(5段階評価にて実施)

アンケート項目	1A	1B	2A	2B	20	ЗА	3B	ЗС	全校
(1)今回の研究テーマを選択して良かったか	4.03	3.96	3.93	4.14	3.59	4.48	4.47	4.47	4.19
(2)研究内容は意義あるものだったか	4.21	3.93	4.00	4.05	3.65	4.32	4.41	4.41	4.17
(3)主体的に取り組むことができたか	4.28	4.04	4.14	3.86	3.59	4.56	4.44	4.50	4.23
(4)他者と協働しながら活動することができたか	4.48	4.25	4.29	4.05	3.82	4.68	4.63	4.59	4.40
(5)深く学ぶことができたか	4.10	4.18	4.29	3.91	3.65	4.48	4.44	4.44	4.22
(6)課題を見つけることができたか	4.24	3.86	4.29	3.50	3.65	4.40	4.38	4.41	4.13
(7)今後さらに発展していく内容であったか	4.14	3.71	4.14	3.77	3.59	4.16	4.38	4.38	4.07

〇公開研究発表会 生徒の感想

- 1 発表のしかたをみて気がついたこと
- (1) 口頭発表・実演
 - ・パワーポイントと発表をうまく合わせることが大事。
 - ・話し方で聞いている側にどれほど興味が持たれるかが分かった。
 - ・水産資源の活用法を探る!!の発表が一番聞きやすかった。演劇ではナレーションが少し声がこもって聞きづらかったが内容は面白かった。玄関のやりとりが面白かった。
 - ・1年生の元気フェスタのグループは何班かに分かれてやることを決め、地域の人とふれあいながら活動しているところがよいと思った。実際に活動して分かったことが分かりやすい。
 - ・何かしら難しい単語や専門用語などが出てきたのでそれらについての事前知識や簡単に説明したものが手元にほしいと思った。説明が速かったり、あやふやな内容だったりするところもあったのでもっと深く調べてほしいと思った。
 - ・声がはきはきしていると聞きやすい。一言、一言の間を少し空けているのがとてもいいと思った。
 - ・読む人の読み方が良いとすごく内容が入ってきやすい。

(2) ポスター発表

- ・それぞれの研究内容のポスターが分かりやすかった。どこがどこだか表示されていなく、記入が困ったので、どこの研究内容なのかを表示してほしかった。
- ・つるし雛では、一枚一枚ポスターをめくる状態だったので講話の内容に沿って資料がとても見やすかったです。声の大きさも聞き取りやすい声だったので内容も聞き取りやすかったです。
- ・体育館を会場としてポスター発表をすると色々な場所でやっているので声が小さいと聞こえづらいことがありました。昨年のように場所は分けた方が良く耳に入ると思います。
- ・資料や内容はどの班も良かったが、声が小さく聞きづらいところがもったいなかった。もっとしっかり声を出していればもっとすばらしい発表になったと思う。質問にもしっかり答えられていて、しっかり調べたということが伝わった。
- 2 資料の提示のしかたについて気がついたこと
 - ・重要語句を色を使って表している。地図や写真を使って感想や課題を表していることが良いと思った。
 - ・後ろに座っていると文字が小さくて読めなかった。
 - ・字が大きい方が見えやすいし、実際の画像があると分かりやすいし、興味がわく。ポスターは後ろの 方に座っていると見えづらいと感じた。声も届きにくい。
 - ・今どこの話をしているのか棒で指していて見やすかったです。
 - ・文字だけのパワーポイントがあったので活動風景を流すと分かりやすいと感じた。写真があると行った活動が分かりやすかった。実演は練習の成果が見えて大変良かったと思う。
 - ・紙を見て説明している人が多くいたので、紙を見すぎず聞いてくれる人の顔を見ながら話してくれた 方がもっと良い発表ができると思います。
 - ・色使い、絵と文のバランスが良かった。
 - リハーサル時でちゃんと確認しておけばよかったなというところがあった。

- 3 感想と発展(感想や新たに自分に芽生えた研究したいという内容など)
 - ・今日は初めてかづの学をしてたくさんの班があり、たくさんの発表を聞き、自分の知識にすることができた。特に2・3年生の発表はとても手が込んでいてすごいと思った。来年のかづの学では今の2・3年生を見習いもっとすごい発表をしたいと思った。また、今日学んだことをもっと詳しく調べたりしたい。
 - ・自分たちのみの力だけでなく、企業の人と協力してやったグループがいて、より鹿角の魅力に近づけたのだと思った。来年も"かづの"ならではのことについてより深く調べ発信したり、自分たちで新しいものを作ったりしてみたいと思う。
 - ・今回のかづの学ではアンケートを実施しその結果をグラフにして紹介していて分かりやすかったです。 また内容が詳しく説明されたので知ることも多かったです。各講座の内容で難しい言葉とか知らない ことばかりなので、全校に発表するときは分かりやすい言葉で話したらより伝わると思います。、
 - ・今回のかづの学の活動を通してかづのを見直すことができました。今まで自分が見ていなかったところまで今日の発表で分かりました。演劇を選んで大道具の仕事をやってみて、友達との協力が必要だと感じました。私はみんなの前へ出て話すことが苦手で絶対役者はやりたくないなと思っていましたが、今回ので少し気持ちは変わりました。私もこれからかづのに貢献していけたらなと思っています。どの形であれかづのの活性化に参加したいです。
 - ・3年生の補助をしていて3年生が頑張っているのが分かった。来年は自分たちの発表なので今年よりも有意義なものにしていきたいと思った。
 - ・かづの学は自らテーマを選び、そのテーマを研究し、地域を深く知ることができる良い活動だと思います。自分が知りたいものを研究することで知るまでとことん調べる、研究する力が身につくとともに地域の人との関わりもあるので、地域に根付いた取り組みであるとともに地元を知る良いきっかけだと思います。3年間、私はかづの学をやってよかったと思いました。この事業はなくならないでほしいと思います。十和田高校らなではの成長できる大切な授業の一つだと思っています。
 - ・今回の研究をするにあたって、まずは実際に農家さんを伺って知識を得る「知る」ということが大切 なことだと感じました。いろいろありましたが、たくさんのことを学ぶことができました。
 - ・今回の公開研究発表会を通して「鹿角の農作物の六次産業化について考える」というテーマに興味を もちました。このテーマは農家だけではなく様々な人との関わりが深く、これからより進展していく テーマだと感じたからです。次回もこのテーマを取り上げ、かづの学だけでなく、色々な場面で十和 田高校の活動の幅を広げてほしいと思いました。
 - ・農業分野で果実や野菜を育てる人材が少なくなってきているのが現状なので、少ない人材を増やすために何をすれば良いのか考える必要がある。祭やスポットが盛んになってきているので、関わりのある食材を増やしてみてもいいともった。温泉なども有名なので広げたい。
 - ・ 資料をまとめる時間が足りなかった。 今回のポスターづくりで時間をもう少し増やしてほしかったと 思いました。
 - ・鹿角には自分の知らない様々な産業や歴史、土壌のことを発見することができて、とても有意義な時間になったと思います。自分は大館に住んでいるので卒業までに自分の知らなかった大館の歴史などを勉強し、地元について深く知ろうと思えました。どのグループも詳しく調べられていてすごいと思いました。
 - ・鹿角のことを知ることができたし、自分が興味をもつテーマもけっこうあり、自分のためになる発表会でした。鹿角に住んでいても知らないことが多く、もっと鹿角のことに関心を持った方がいいのかなと思いました。このかづの学を通してこれで終わりではなく、終わってから自分の地域に関わるようにしていきたいです。
 - ・自分が知っていることを踏まえて新しいことを知ることができて嬉しかった。実際に鹿角の歴史に関係がある場所に行ってみたいと思った。鹿角出身で今活躍されている人を調べて何をしている人なのかを知ってもらいたい。演劇は声が聞きづらいことは多いから事前に声を録音する方法も考えた方がいいと思う。
 - ・鹿角に残りたいと思いました。そして地元を盛り上げていきたいと思いました。どうやったら子ども が増えるかも考えたい。
 - ・今年で最後のかづの学でどのグループもしっかり題材について詳しく調べて研究していてすごいなと思った。自分たちもりんごの手伝いや農業委員会の方々との話し合いをしたりと、内容の濃い1年にすることができたし、良い発表ができてよかったなと思う。
 - ・水産資源は全国的に見ても大きなことだと思うので今後もっと大きく発展していくべき課題だと思います。食は人を引くうえで大きなことだと思うので、もっと宣伝していくべきだと感じました。

編集後記

平成26年度より開始したふるさと教育「かづの学」も5年目となりました。今年度は昨年と同様に1年生が全員で「研究の基礎」と題した領域に所属し、2,3年生は産業・文化の2領域12講座に所属し、大きなテーマに基づきながらそれぞれの研究を推進しました。成果は公開研究発表会で披露し、生徒は知見を広げ、ふるさと鹿角の課題を考えるとともに、魅力を再発見することができたと感じております。このたび、1年間の活動の集大成として研究集録を作成いたしました。キャリア教育についての一資料として御活用いただければ幸いに存じます。

本校のふるさと教育事業に際し、御協力いただいた関係機関の皆様に改めて感謝申し上げます。

ふるさと教育実行委員会

佐藤 真之 岩澤 利哉 渡邉 一郎 吉成 徹 今川 浩子 土門 祐子 齊藤 恭子 濱松 崇子 柴田 果織 加賀 誠幸 飯塚 俊介

平成30年度 ふるさと教育「かづの学」研究集録 第5号 平成31年3月1日 発行

編集者 秋田県立十和田高等学校 ふるさと教育実行委員会 発行者 秋田県立十和田高等学校 校長 佐藤 久男 電 話 0186-35-2062

FAX 0186-35-2272